MITSUBISHI

三菱液晶ディスプレイ

Diamondcrysta
RDT196S シリーズ
RDT196V シリーズ
(L195GH)
RDT1712S シリーズ
RDT1712V シリーズ
(L175GG)
取扱説明書

■この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全のために必ず守ること」は、液晶ディスプレイをご使用の前に必ず読んで正しくお使いください。
■保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入を確かめて、販売店からお受け取りください。
■取扱説明書は「保証書」・「お客様相談窓口のご案内」と共に大切に保管してください。

インターネットホームページ : http://www.MitsubishiElectric.co.jp/display
INTERNET INFORMATION & DOWNLOADS SERVICE

もくじ ページ

ご使用の前に

何ができるの？

映画の暗いシーンを見やすく　デジタルカメラの画像をくっきり

■ DV MODE（Dynamic Visual Mode）*（→ P19）*

映画、ゲーム、写真、文書など、表示する内容に合わせた最適な画質を 5 つのモードからお選びいただけます。

動画もくっきり鮮明に表示

■ オーバードライブ回路搭載

パネル応答速度4msを実現し、スポーツやアクションシーンなどの動きの早い映像でもぶれずに輪郭までくっきり鮮明に再現します。

USB ポートを使用したい

■ USB ハブ機能（RDT196S のみ）*（→ P9、P12、P15、P29）*

USBダウンストリームポートを4個装備、左側面のUSBポートを使用すれば手軽にUSBフラッシュメモリーも接続可能です。

※ USB 機能は使用するコンピューターの BIOS や OS、周辺機器によっては動作しない場合があります。この場合は、まず各使用機器の取扱説明書を確認したり、各機器のメーカーにお問い合わせください。

2 台のコンピューターをひとつのディスプレイで切り替え表示

■ 2 系統入力 *（→ P11）*

2 台のコンピューターを本機につなぎ、コンピューターの画面を切り替えて表示させることができます。

明るさや色の調節をしたい

■ OSD 機能（On Screen Display）*（→ P17）*

画面の明るさ、表示位置やサイズ、カラー調節などをOSD 画面により調節することができます。OSD 機能そのものに関する操作（OSD オートオフ、OSD ロックなど）もできます。

電源ランプの明るさを調節したい

■ LED ブライトネス調節機能 *（→ P20）*

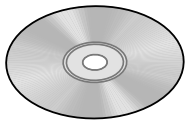
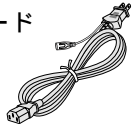
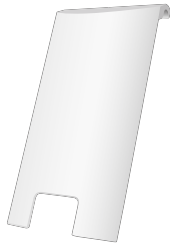
映画の暗いシーンを見るときやマルチディスプレイ環境のときなど、画像表示の妨げにならないように電源ランプの輝度を下げることができます。

本機は、デジタルとアナログ両方の信号を受けて画像を表示することができます。接続に際しての詳細は「接続方法について」*（→ P10）*に記載してあります。

接続方法	コンピューターの機種	コンピューターの出力端子	画面の自動調節
デジタル接続	Windows® シリーズ※1 Macintosh シリーズ※2	DVI-D 端子または DVI-I 端子	不要（つなぐだけでご使用になれます）
アナログ接続	Windows® シリーズ※1 Macintosh シリーズ※2	ミニD-SUB15ピン端子、DVI-I端子※3 または D-SUB15 ピン端子	要 *（→ P16）*
2 系統入力	Windows® シリーズ※1 Macintosh シリーズ※2	デジタル出力端子とアナログ出力端子を併用します。	要（アナログ接続のみ）*（→ P16）*

※ 1　Windows®をご使用の方は、セットアップ情報をインストールすることをお奨めいたします。詳しくは「Windows®セットアップ」をご覧ください。*（→ P15）*

※ 2　Apple Macintosh シリーズコンピューターは、モデルにより出力端子が異なります。変換アダプター（市販）が必要となる場合があります。詳しくは「接続方法について」*（→ P10）*をご覧ください。

※ 3　DVI-I 端子によるアナログ接続には、変換アダプター（市販）等が必要となります。詳しくは「接続方法について」*（→ P10）*をご覧ください。

お知らせ

液晶ディスプレイは精密度の高い技術で作られており、画面の一部に点灯しないドットや常時点灯しているドットがある場合がありますが、これは故障ではありません。本商品の有効ドット数の割合は 99.9995% 以上です。

※ 有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、弊社で保証する表示可能なドット抜けの割合」を示しています。「画素」および「ドット」という言葉はISO13406-2に従い、正確に表現すると、「画素」は「ピクセル(pixel)」、「ドット」は「副画素」とも呼ばれ「サブピクセル(subpixels)」となります。つまり、「画素」は実体のある副画素と言われる発光する点から構成され、「副画素」は、画素に色または階調を与えるもので、一つの画素内で個別に処理される分割された画素内部構造を示します。

付属品の確認

お買い上げいただいたときに同梱されている付属品は次のとおりです。
万一不足しているものや損傷しているものがありましたら、販売店までご連絡ください。

ユーティリティーディスク	電源コード	信号ケーブル	ケーブルカバー
（テストパターンおよびセットアップ用 ***（→ P15）*** Windows®95/98/Me/2000/XP&Macintosh対応）		ミニ D-SUB15 ピン—ミニ D-SUB15 ピンケーブル（アナログ接続用）	
	USBケーブル （RDT196Sのみ）	DVI-D—DVI-D ケーブル（デジタル接続用）	保証書 (梱包箱に貼り付けてあります。)
	取扱説明書（本書）		お客様相談窓口のご案内
	セットアップシート (本体に貼り付けてあります。)		

本書の見かた

本書の表記のしかた

お願い：取扱い上、特に守っていただきたい内容

お知らせ：取扱い上、参考にしていただきたい内容

（→ PXX）：参考にしていただきたいページ

Win Mac：Windows®とMacintosh両方に関わる内容

Win：Windows® のみに関わる内容

Mac：Macintosh のみに関わる内容

知りたいことを探すために

やりたいことから探す→「何ができるの？」***（→ P2）***
説明の内容から探す→「本書の構成と分類」***（→ P3）***
言葉と意味で探す→「用語解説」***（→ P29）***
もくじで探す→「もくじ」***（→表紙）***
さくいんで探す→「さくいん」***（→裏表紙）***

本書の構成と分類

本書では、本機を安全かつ快適にお使いいただくために、以下のように説明を分類しています。

ご使用の前に *（→ P2）*
ご使用のコンピューターと本機の接続方法によって、お客様が必要となる説明がどこに記載されているのかを把握していただくための説明です。

安全のために必ず守ること *（→ P5）*
万が一の事故を回避するための使用方法に関する注意事項です。

各部の名称 *（→ P8）*
後に続く「接続」や「画面設定」などの説明に際して、本機の各部の名称とその位置を把握いただくための説明です。

接続 *（→ P10）*／設定 *（→ P16）*
ご使用のコンピューターと本機を接続して使用するまでに必要な手順を説明しています。

画面調節（OSD 機能）*（→ P17）*
画面の調節やOSD機能の設定をする際の手順や各機能について説明しています。

機能 *（→ P22）*
本機に装備された機能で、OSD機能以外の機能についての説明をしています。

困ったとき *（→ P23）*
故障の疑いがあるなど、困ったときの対処方法などを説明しています。

付録 *（→ P27）*
用語の解説、さくいんなどを掲載しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取扱いをしてください。
本機は付属の電源コードおよび信号ケーブルを使用した状態でVCCI基準に適合しています。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

本商品は社団法人電子情報技術産業協会が定めた「表示装置の静電気および低周波電磁界」に関するガイドラインに適合しています。

本商品はスウェーデンの労働団体TCOにより定められた、低周波電磁界、エルゴノミクス、省エネルギー、環境保護に対する規格であるTCO規格に適合しています。

本製品はPC3R「PCグリーンラベル制度」の審査基準（2005年度版）を満たしています。
詳細は、Webサイト http://www.pc3r.jp をご覧ください。

■本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
■本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
■本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気付きの点がありましたらご連絡ください。
■乱丁本、落丁本の場合はお取り替えいたします。販売店までご連絡ください。

安全のために必ず守ること

この取扱説明書に使用している表示と意味は次のようになっています。
誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

警告 誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性があるもの	**注意** 誤った取扱いをしたときに、傷害または家屋・家財などの損害に結びつくもの

図記号の意味は次のとおりです。

	絶対におこなわないでください。		**必ず指示に従いおこなってください。**
	絶対に分解・修理・改造はしないでください。		**必ずアースリード線を接地（アース）してください。**
	必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。		**高圧注意（本体後面に表示）**

●ご使用の前に、この欄を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。

⚠ 警告

万一異常が発生したときは、電源プラグをすぐ抜く!!

異常のまま使用すると、火災・感電の原因になります。
すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

プラグを抜く

故障（画面が映らないなど）や煙、変な音・においがするときは使わない

使用禁止

火災・感電の原因になります。

裏ぶたをはずさない

分解禁止

内部には電圧の高い部分があり、さわると感電の原因になります。

傾斜面や不安定な場所に置かない

禁止

落ちたり、倒れたりしてけがの原因になります。

電源コードを傷つけない

傷つけ禁止

重いものをのせたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったり、折り曲げたまま力を加えたりしないこと。コードが破損して火災・感電の原因になります。

キャビネットを破損したときは使わない

使用禁止

火災・感電の原因になります。

異物をいれない
特にお子さまにご注意

禁止

火災・感電の原因になります。

アース線を接続する

アース線を接続せよ

アース線を接続しないと故障のときに感電の原因になります。
アース接続は必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前におこなってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてからおこなってください。

風呂場や水のかかるところに置かない

水ぬれ禁止

水などが液晶ディスプレイの内部に入った場合はすぐに本体の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてお買い上げの販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、故障・火災・感電などの原因になります。

アースリード線を挿入・接触しない

禁止

電源プラグのアースリード線を電源コンセントに挿入・接触させると火災・感電の原因になります。

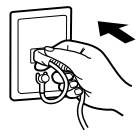
⚠警告

正しい電源電圧で使用する
指定の電源電圧以外で使用すると火災・感電の原因になります。
一般のご家庭のコンセント（AC100V）でお使いいただくための電源コードを添付しております。AC100V以外（最大AC240V）でご使用の際には、お使いになる電圧に適した電源コードをご準備の上お使いください。
本機に添付している電源コードは本機専用です。
安全のため他の機器には使用できません。

修理・改造をしない
けが・火災・感電の原因になります。
修理・改造禁止

ポリ袋で遊ばない
特にお子さまにご注意
本体包装のポリ袋を頭からかぶると窒息の原因になります。
禁止

雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない
感電の原因になります。
接触禁止

液晶を口にしない
液晶パネルが破損し、液晶が漏れ出た場合は、液晶を吸い込んだり、飲んだりすると、中毒を起こす原因になります。
万一口に入ってしまったり、目に入ってしまった場合は、水でゆすいでいただき、医師の診断を受けてください。手や衣類についてしまった場合は、アルコールなどで拭き取り、水洗いしてください。
警告

⚠注意

設置のときは次のことをお守りください。
風通しが悪かったり、置き場所によっては、内部に熱がこもり、火災や感電の原因になります。

狭い所に置かない
設置禁止

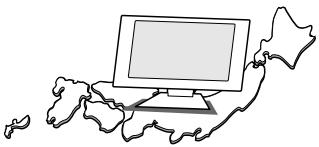
あお向けや横倒し、さかさまにしない
禁止

直射日光や熱器具のそばに置かない
設置禁止

布などで通風孔をふさがない
禁止

屋外での使用禁止
屋外での使用禁止
本機は屋内での使用を想定しています。屋外で使用すると故障の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い所、油煙や湯気の当たる所に置かない
設置禁止

車載用禁止
車載用など移動用途には使用できません。故障の原因になることがあります。
禁止

液晶パネルに衝撃を加えない
破損してけがや故障の原因になります。
禁止

接続線をつけたまま移動しない
火災・感電の原因になります。電源プラグや機器間の接続線をはずしたことを確認の上、移動してください。
禁止

電源プラグを持って抜く
コードを引っ張ると傷がつき、火災・感電の原因になります。
プラグを持つ

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因になります。
ぬれ手禁止

⚠注意

電源プラグを奥までさしこむ

しっかりと差し込まれていないと火災・感電の原因となることがあります。

しっかり差し込む

お手入れの際は電源プラグを抜く

感電の原因になります。
During servicing, disconnect the plug from the socket-outlet.

プラグを抜く

スタンドに指や手をはさまない

角度調節時に指や手をはさむとけがの原因になります。

手の挟みこみに注意

液晶ディスプレイを廃棄する場合

液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には水銀が含まれています。ご自身で廃棄しないでください。本機を廃棄する場合は、資源有効利用促進法に基づく、回収・リサイクルにご協力ください。***（→ P24：本機を廃棄するには）***

１年に一度は内部掃除を

内部にほこりがたまったまま使うと、火災や故障の原因になります。
内部掃除は販売店にご依頼ください。

内部掃除

長期間の旅行、外出のときは電源プラグを抜く

プラグを抜く

電源プラグのほこりなどは定期的にとる

火災の原因になります。
１年に一度は電源プラグの定期的な清掃と接続を点検してください。

ほこりを取る

液晶ディスプレイの上手な使い方

日本国内専用です

この液晶ディスプレイは日本国内用として製造・販売しています。
日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
またこの商品に関する技術相談、アフターサービス等も日本国外ではおこなっていません。
This color monitor is designed for use in Japan and can not be used in any other countries.

液晶パネルのお手入れ

パネル表面は傷つきやすいので、固いもので押したりこすったりしないように、取り扱いには十分注意してください。パネル表面は触指などにより汚れることのないようにご注意ください。パネル表面が汚れた場合には、乾いた布で軽くふきとってください。またきれいな布を使用されるとともに、同じ布の繰り返し使用はお避けください。
溶剤を使用される場合は以下のものを推奨いたします。その際は溶剤が残らないようにしてください。
（水、エタノール、イソプロピルアルコール）
推奨以外の溶剤（酸、アルカリ、アセトン等）は使用しないでください。溶剤類や水滴等が、液晶ディスプレイ内部に入ったり表示面以外の液晶ディスプレイ表面に付着すると商品を破壊する恐れがありますのでご注意ください。

キャビネットのお手入れ

お手入れの際は電源プラグを抜いてください。柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときには水でうすめた中性洗剤に浸した布をよくしぼってふき取り、乾いた布で仕上げてください。

上手な見方

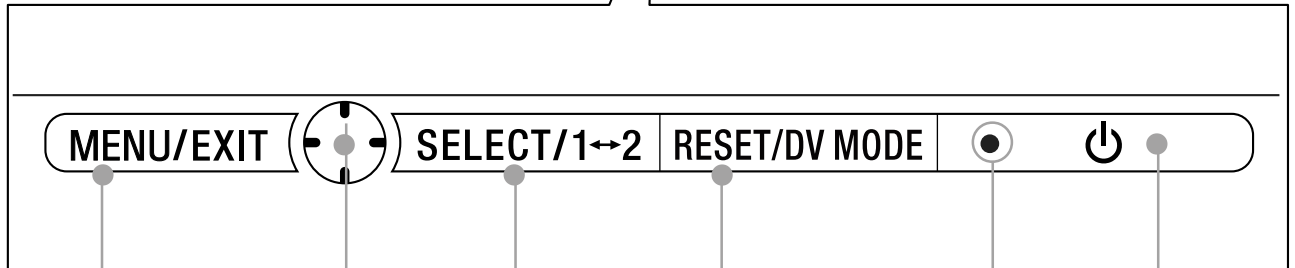
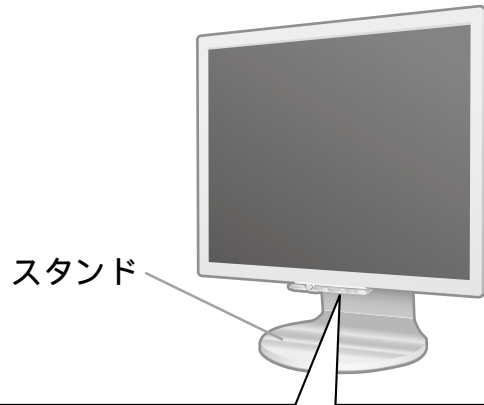
画面の位置は、目の高さよりやや低く、目から約40～70cmはなれたぐらいが見やすくて目の疲れが少なくなります。
明るすぎる部屋は目が疲れます。適度な明るさの中でご使用ください。
また、連続して長い時間、画面を見ていると目が疲れます。

キャビネットを傷めないために

キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。ベンジンやシンナー、アルカリ性洗剤、アルコール系洗剤、ガラスクリーナー、ワックス、研磨クリーナー、粉石鹸などでふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。変質したり、塗料がはげる原因となります。（化学ぞうきんご使用の際は、その注意書きに従ってください。）また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させたままにしないでください。キャビネットが変色したり、変質するなどの原因となります。

各部の名称

本体正面

MENU/EXIT　SELECT/1↔2　RESET/DV MODE

MENU/EXIT ボタン

OSD画面を表示または消します。
OSD機能の操作の最中には 1 つ上の画面に戻ります。

コントロールボタン（▲▼ ◀▶）

上下左右（▲▼ ◀▶）に動かして OSD 画面の操作をします。

SELECT/1↔2 ボタン

OSD画面が表示されていない場合
信号入力コネクター（INPUT1 または 2）を選択します。

OSD画面が表示されている場合
選んだ項目を決定します。

RESET/DV MODE ボタン

OSD画面が表示されていない場合
DV MODE を切り替えます。（スタンダード、テキスト、ムービー、ゲーム、フォト）***(→P19)*** 現在の状態が画面右上に表示されます。

OSD画面が表示されている場合
現在表示中の調節項目のリセット画面を表示します。

電源ランプ

電源を入れたときは電源ランプは青色に点灯します。パワーマネージメント機能の作動中は橙色に点灯します。***(→P22)***
電源を入れても電源ランプが点灯しない場合は、主電源スイッチ***(→P9)***がオンになっているか、またはLEDブライトネス調節機能***(→P20)***で輝度を下げていないか確認してください。

電源スイッチ

電源をオン／オフするときに押します。
主電源スイッチがオンのときのみ有効になります。

お 願 い
電源を短時間のうちにひんぱんにオン／オフしないでください。故障の原因となることがあります。

お知らせ

● 各ボタンによる詳しいOSD画面の操作については「OSD画面の基本操作」***(→ P18)***をご覧ください。

各部の名称

本体背面

ケーブルカバー
接続後のケーブルをすっきり収納します。

主電源スイッチ
｜：オン
○：オフ
出荷時はオンになっています。

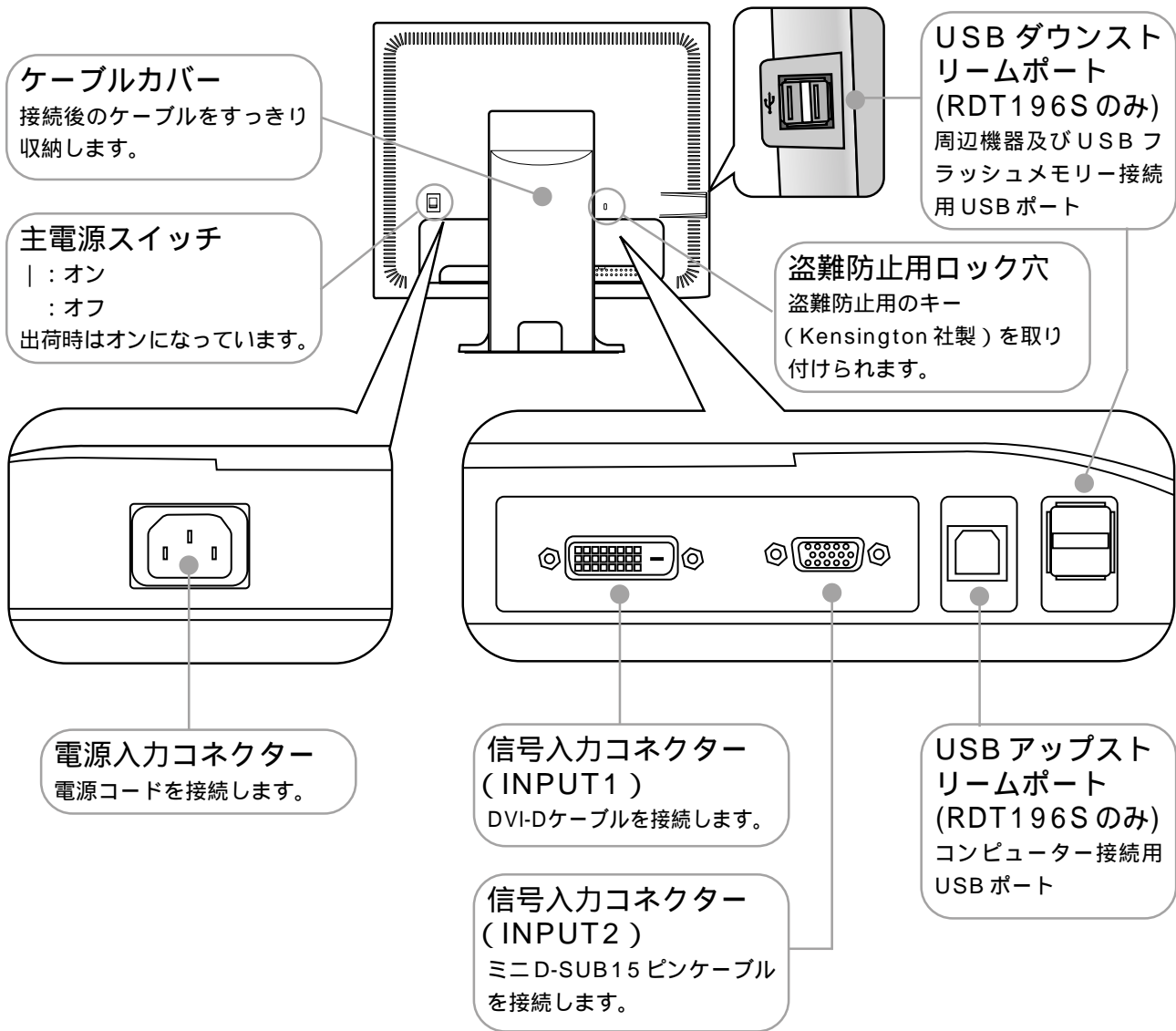
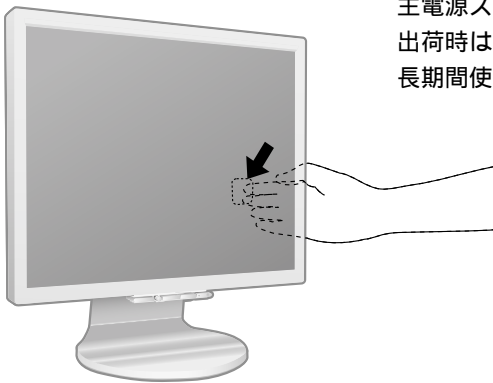
USB ダウンストリームポート(RDT196S のみ)
周辺機器及び USB フラッシュメモリー接続用 USB ポート

盗難防止用ロック穴
盗難防止用のキー（Kensington 社製）を取り付けられます。

電源入力コネクター
電源コードを接続します。

信号入力コネクター（INPUT1）
DVI-Dケーブルを接続します。

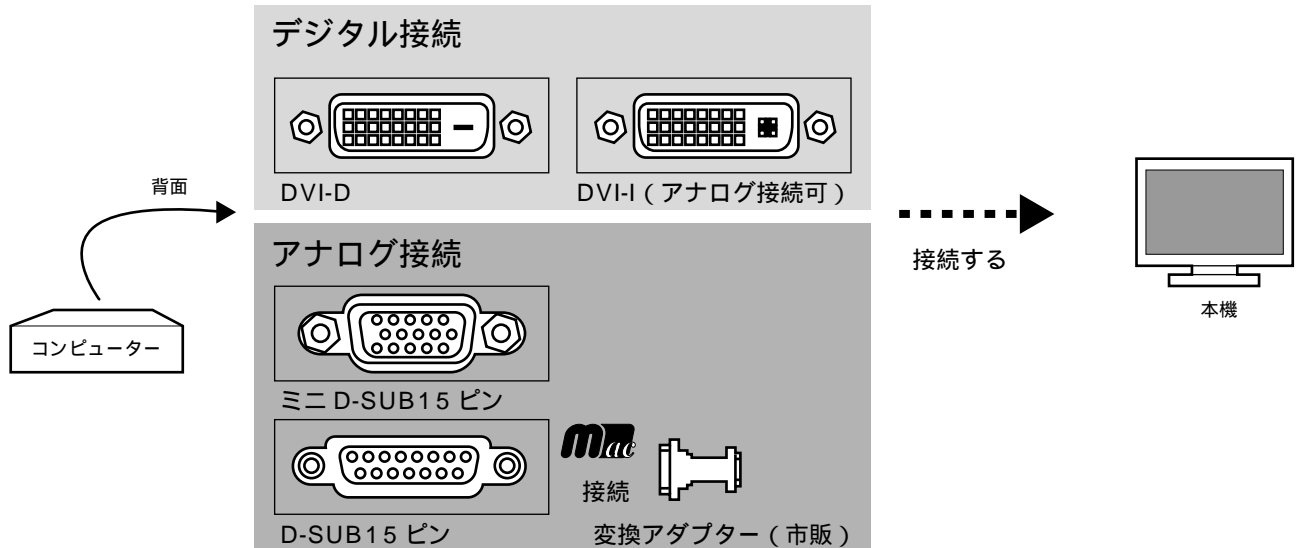
信号入力コネクター（INPUT2）
ミニ D-SUB15 ピンケーブルを接続します。

USB アップストリームポート(RDT196S のみ)
コンピューター接続用 USB ポート

主電源スイッチについて

主電源スイッチは本体正面から向かって右側の背面にあります。
出荷時はオンになっています。
長期間使用しないときはオフにしてください。

接続

接続方法について

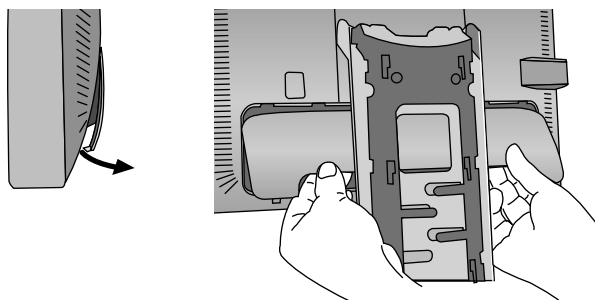
本機の信号入力コネクターは、アナログ信号(ミニD-SUB15ピン)とデジタル信号(DVI-D)に対応しています。また、2 台のコンピューターを同時に本機に接続し、表示する入力を切り替えて使うことができます。ご使用のコンピューターの出力端子の形状をお確かめになり、本機の信号コネクターに接続してください。それぞれの接続に対応したケーブルをご使用ください。

接続コネクターと信号ケーブル対応表

ディスプレイ側 / コンピューター側	DVI-D (INPUT1)	ミニ D-SUB15 ピン (INPUT2)
DVI-I(アナログ接続／デジタル接続)	DVI-D—DVI-D ケーブルで接続	ミニ D-SUB15 ピン— ミニ D-SUB15 ピンケーブルで接続 (市販の変換アダプターが必要)
DVI-D（デジタル接続）	DVI-D—DVI-D ケーブルで接続	接続できません
ミニ D-SUB15 ピン（アナログ接続）	接続できません	ミニ D-SUB15 ピン— ミニ D-SUB15 ピンケーブルで接続
D-SUB15 ピン（アナログ接続） Mac	接続できません	ミニ D-SUB15 ピン— ミニ D-SUB15 ピンケーブルで接続 (市販の変換アダプターが必要)

接続する

お 願 い

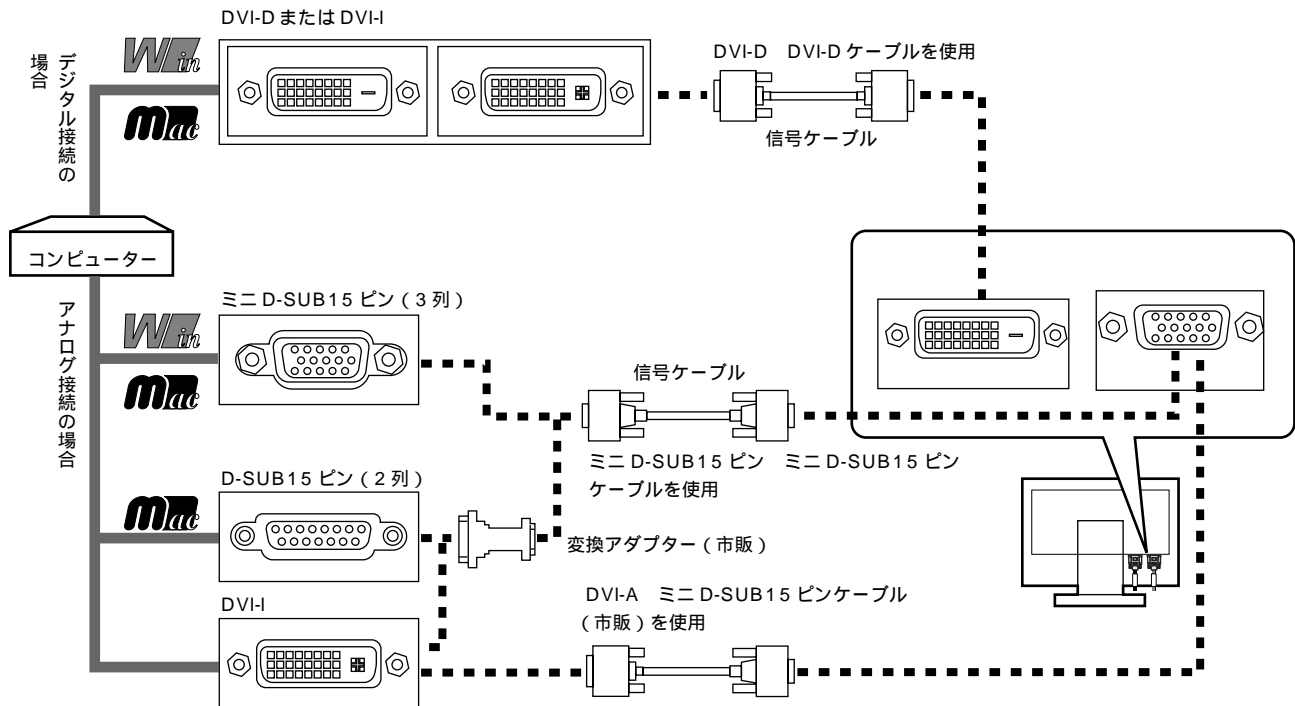
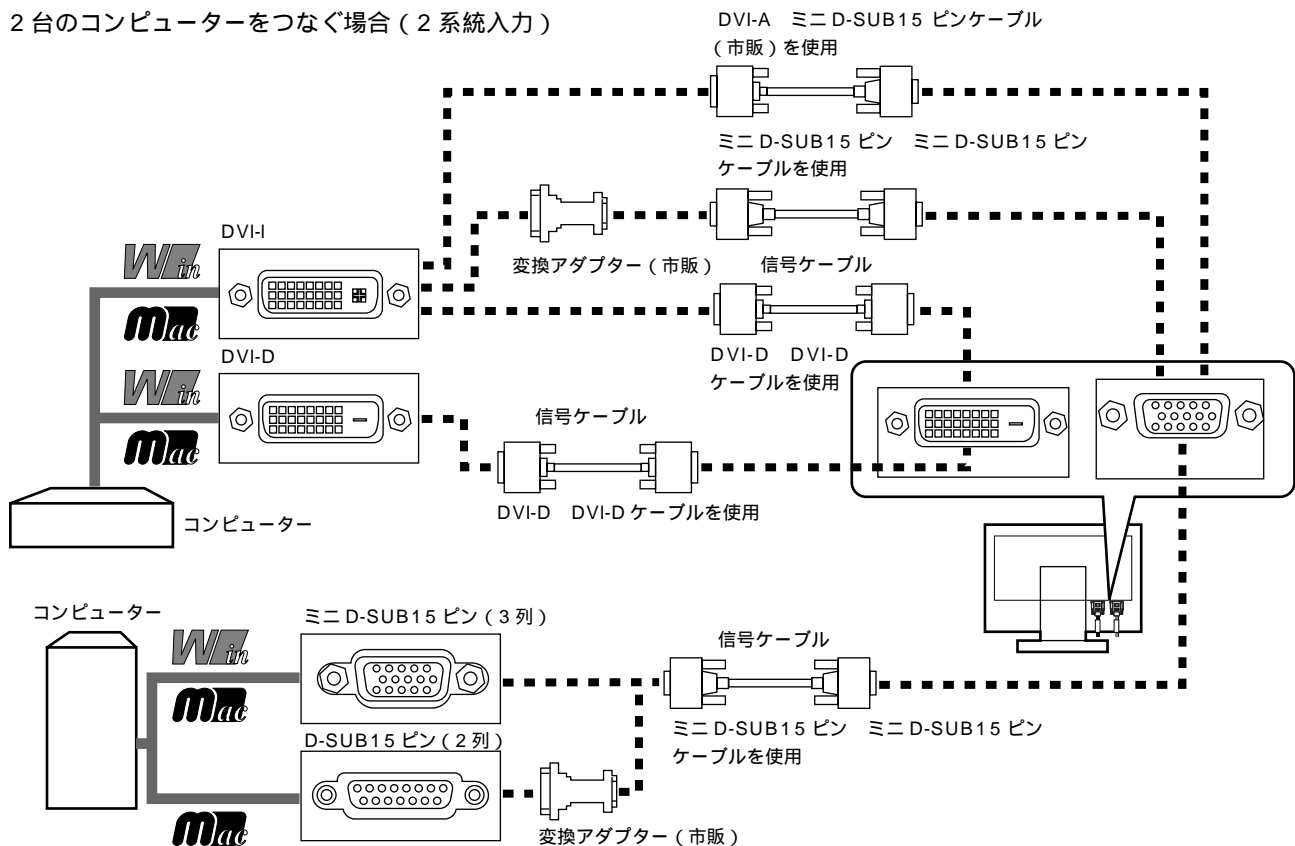
● 信号ケーブルを接続する前に、本機、コンピューターおよび周辺機器の電源を切ってください。

1 コネクターカバーを外す

⚠ 注意

・ **取り付け、取り外しの際は、コネクターカバーに顔を近づけたり、爪をかけたりしないでください。ケーブルカバーが急に外れたりして、ケガの原因になります。**

2 信号ケーブルを接続する

信号ケーブルおよび変換アダプターは、接続後必ずそれぞれの固定ネジで確実に固定してください。

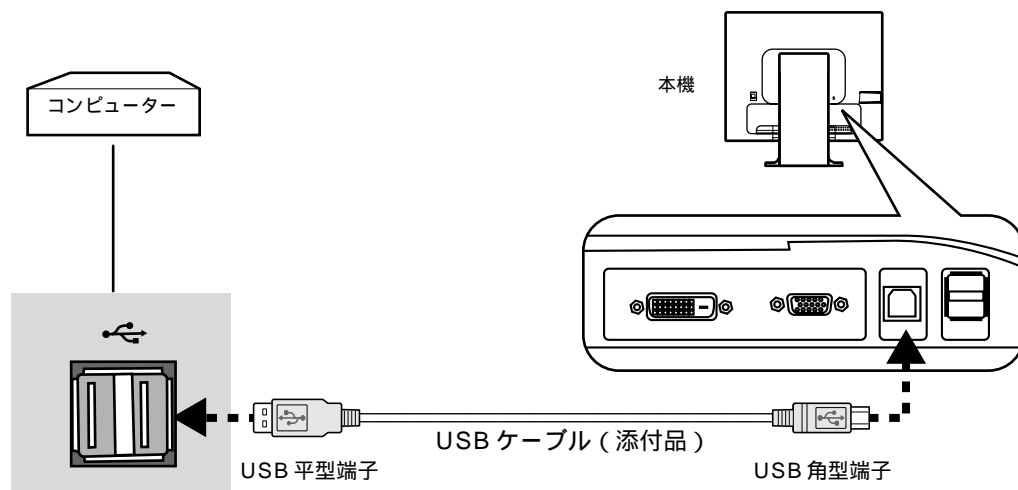
1 台のコンピューターをつなぐ場合

2 台のコンピューターをつなぐ場合（2 系統入力）

※ Apple Macintosh シリーズコンピューターは、モデルによりアナログ RGB 出力コネクターが異なります。
※ 市販の変換アダプターやケーブルをご使用の際は接続されるコンピューターのコネクター形状にあったものをお買い求めください。
※ デジタル接続のみで 2 台のコンピューターを接続することはできません。
※ 本液晶ディスプレイに DVI-A では接続できません。

3 USB ケーブルを接続する（RDT196S のみ）

1 USB ケーブルの角型端子を本機の USB アップストリームポートにしっかり差し込む

2 USB ケーブルの平型端子をコンピューターのダウンストリームポートに差し込む

お願い

● USB ケーブルのコネクターの形状及び向きをよく確かめてから接続してください

4 電源を接続する

お知らせ

● 画面を上方に傾けたほうがケーブル類の接続が簡単におこなえます。

お願い

● コンピューター本体の電源コンセントに接続するときは、電源容量を確認してください。（1.0A 以上必要です。）
● 電源コードは本体に接続してから電源コンセントに接続してください。
● 画面を上方に傾けた状態でケーブル類を本体のツメにかけてください。設置後に画面を上方に傾けた際に必要となるケーブルの長さが確保されます。

1 電源コードの一方の端を、本機の電源入力コネクターに差し込む

奥までしっかりと差し込んでください。

2 電源コードと信号ケーブルをスタンド前面の穴を通す。USB ケーブルをスタンド前面の穴を通す。(RDT196S のみ)

※ケーブルマネージメントをご使用にならない場合はこれらの作業は不要です。

3 コネクターカバーを取り付ける

4 電源コードと信号ケーブルをスタンドのツメにかける。USB ケーブルをスタンドのツメにかける。(RDT196S のみ)

※ケーブルマネージメントをご使用にならない場合はこれらの作業は不要です。

お願い

● ケーブル類が交差しないようにしてください。ケーブル類が交差するとケーブルカバーが取り付けにくくなることがあります。
● 画面を前後に動かし *(→ P14)*、ケーブル類に十分な余裕があるかどうかを確認してください。

5 ケーブルカバーを取り付ける

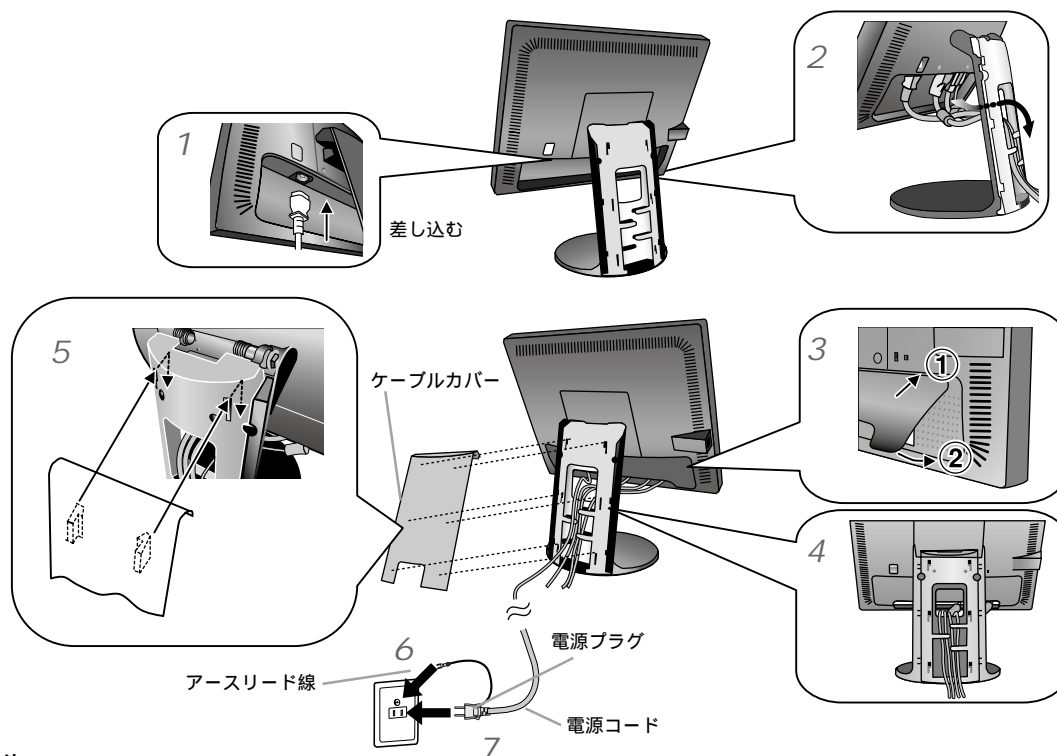
お知らせ

● ケーブルカバーの取り外し方については、「スタンドの取り外し方」の「ケーブルカバーを外す」*(→ P27)* をご覧ください。

⚠注意

- **取り付け、取り外しの際は、ケーブルカバーに顔を近づけたり、爪をかけたりしないでください。ケーブルカバーが急に外れたりして、ケガの原因になります。**
- **取り付け、取り外しの際は、ケーブルカバーに指をはさまないように気を付けてください。けがの原因となることがあります。**

6 アースリード線を接地（アース接続）する

7 電源プラグを AC100V 電源コンセントに接続する

⚠警告

- **表示された電源電圧以外で使用しないでください。火災・感電の原因になります。**
- **本機には一般のご家庭のコンセント（AC100V）でお使いいただくための電源コードを添付しております。AC100V以外（最大AC240V）でご使用の際には、お使いになる電圧に適した電源コードをご準備の上お使いください。**
- **電源プラグのアースリード線は必ず接地（アース）してください。なお、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてからおこなってください。また、電源プラグのアースリード線は電源コンセントに挿入または接触させないでください。火災・感電の原因となります。**
- **本機に添付している電源コードは本機専用です。安全のため他の機器には使用しないでください。**

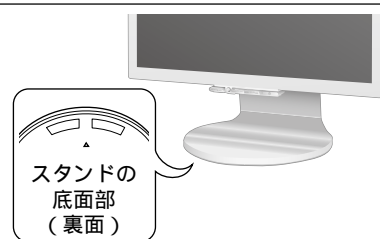
お願い

● 電源コンセントの周辺は、電源プラグの抜き差しが容易なようにしておいてください。
This socket-outlet shall be installed near the equipment and shall be easily accessible.

5 設置と調節

8 本機を使用する場所に設置する

お願い

● スタンド底面部にある△を右図のように手前に向けて設置してください。
△の位置がずれていると、左右均等にスイーベルしなくなります。

9 本機およびコンピューターの電源を入れる

10 画面の調節をおこなう

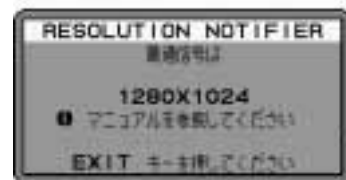
■ デジタル接続の場合

自動判別によって画面情報を設定しますので、画面の調節は不要です。

■ アナログ接続の場合

まずは「自動調節をする（アナログ接続の場合）」***（→ P16）***の手順にしたがって自動調節をしてください。自動調節をおこなってもうまく表示されない場合は「画面調節（OSD 機能）」***（→ P17）***をご覧ください。

お知らせ

● 最適な解像度以外の信号を入力している場合、RESOLUTION NOTIFIER の案内画面が表示されます。解像度を変えずにこのままご使用になる場合、この案内画面を表示させなくすることができます。方法については「メニューツール」の「■ RESOLUTION NOTIFIER」***（→ P21）***をご覧ください。

RESOLUTION NOTIFIER の案内画面

11 USB の認識（RDT196S のみ）

USB ハブの接続がコンピューター側で検出され、USB ハブ用のデバイスドライバが自動的にインストールされます。

コンピューターによっては、接続しても USB ハブと検出されない場合があります。その場合は画面に表示されるメッセージに従って、USB ハブ用のデバイスドライバをインストールしてください。

お 願 い

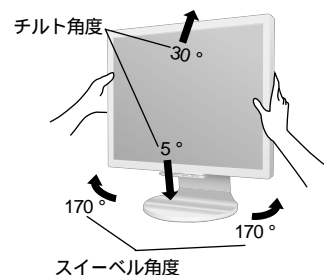
● 本機がパソコンに認識されるまでに数秒程度必要です。認識される前に USB ケーブルを引き抜いたり、瞬間的な抜き差しを繰り返したりしないでください。

12 角度を調節する

お好みに合わせて本機の角度を調節してください。
右図のように見やすい角度に調節します。

液晶画面を押さないようにしてください。

⚠ 注 意

角度調節時に、指をはさまないように気を付けてください。
けがの原因となることがあります。

付属のユーティリティーディスクについて

同梱のユーティリティーディスクは、以下のような場合にご使用ください。

※ 内容の詳細やインストール方法などについては、ユーティリティーディスクの Readme.Txt をご覧ください。

Windows® セットアップ

付属のユーティリティーディスクには、ディスプレイのWindows®用セットアップ情報が入っています。このセットアップ情報をご使用のコンピューターにインストールすることで、最大解像度や垂直周波数等がディスプレイの能力に合わせて設定できるようになります。

本機をはじめてコンピューターに接続したときには、付属のユーティリティーディスクからセットアップ情報をコンピューターへインストールしてください。

インストール手順はユーティリティーディスクの Readme.Txt をご覧ください。

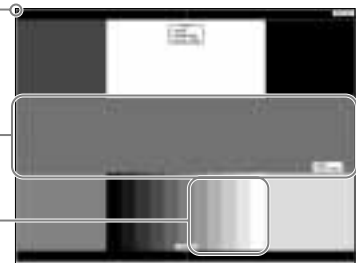
テストパターン

付属のユーティリティーディスクには、テストパターンが入っています。このテストパターンはアナログ接続をした場合の画面調節の際に使用します。

ご使用方法については、ユーティリティーディスクの Readme.Txt をご覧ください。

画面調節メニューの左／右または下／上の項目で調節をおこない、白い枠が完全に見えるようにする *(→ P19)*

画面調節メニューの水平サイズまたは位相の項目で調節をおこない、白黒の縦じまがはっきりと見えるようにする *(→ P19)*

ブライトネス・コントラストメニューのコントラストで調節をおこない、白の階調差が見えるようにする *(→ P19)*

テストパターン表示画面

USB 機器の接続について（RDT196S のみ）

本機は、下記の USB ポートを装備しています。

アップストリーム（1 ポート）： 付属の USB ケーブルで USB 対応のコンピューターと接続します。

ダウンストリーム（4 ポート）： USB 対応のメモリー、マウスやキーボードなどの周辺機器からのケーブルを接続します。

USB 機器を本機の USB ダウンストリームポート *(→ P9)* に接続します。

※ USB ケーブルのコネクター形状及び向きをよく確かめてから接続してください。

※ USB 機能は使用するコンピューターの BIOS や OS、周辺機器によっては動作しない場合があります。この場合は、まず各使用機器の取扱説明書を確認したり、各機器のメーカーにお問い合わせください。

※ 本機の電源スイッチ及び主電源スイッチをオフにしたり、Windows®のシャットダウンを実行する場合には、事前に本機に接続した USB 機器を停止させて取り外してください。
もし、本機に接続したUSB機器を停止させないまま、上記の操作を行うとコンピューターがクラッシュして貴重なデータが失われることがあります。

※ 本機がコンピューターに認識されるまでに数秒程度必要です。認識される前にUSBケーブルを引き抜いたり、瞬間的な抜き差しを繰り返したりしないでください。

自動調節をする（アナログ接続の場合のみ）

本機をコンピューターとアナログ接続の方法で接続したときは、最初に自動調節をおこないます。その後、さらに調節をおこなう必要がある場合は各調節項目を個別に調節してください。*（→ P18）*
自動調節はコントラストの自動調節と表示位置、水平サイズや位相の自動調節の 2 つに分かれています。2 つともおこなってください。

お知らせ

- 自動調節はアナログ接続をした際に、適切な画面を表示するよう、画面のコントラスト、表示位置、水平サイズや位相を自動で調節します。デジタル接続では自動調節は不要です。
- OSD 画面を表示する方法など、操作のしかたの詳細については、「OSD 画面の基本操作」*（→ P18）*をご覧ください。

1 背面の主電源スイッチが ON であることを確認する

2 前面の電源スイッチおよびコンピューターの電源を入れる

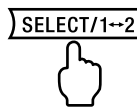
3 画面全体に付属のユーティリティーディスクのテストパターン（→ P15）またはワープロソフトの編集画面などの白い画像を表示する

4 MENU/EXIT ボタンを押して OSD 画面を表示する

5 コントラストの自動調節をおこなう

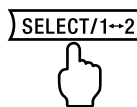
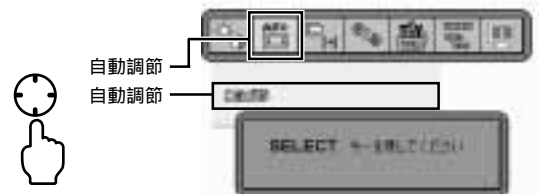
① ボタンを ▼ 方向に 3 回動かして「ブライトネス・コントラスト」の「オートコントラスト」を選ぶ

② SELECT/1↔2 ボタンを押す
入力された信号を本機のマイコンが検出し、コントラストの自動調節を開始します。

「実行中…」の表示が消え、元の画面が表示されたらコントラストの自動調節は完了です。
手順 6 に進みます。

6 表示位置、水平サイズ、位相の自動調節をおこなう

① コントラストの自動調節が完了した状態で、ボタンを ▲ 方向に 3 回、▶方向に 1 回の順に動かして「自動調節」の「自動調節」を選ぶ

② SELECT/1↔2 ボタンを押す
入力された信号を本機のマイコンが検出し、左右方向の表示位置、上下方向の表示位置、水平サイズおよび位相の自動調節を開始します。

「実行中…」の表示が消え、元の画面が表示されたら調節完了です。
これですべての自動調節が完了しました。

7 MENU/EXIT ボタンを 1 回押し、OSD 画面を消す

お願い

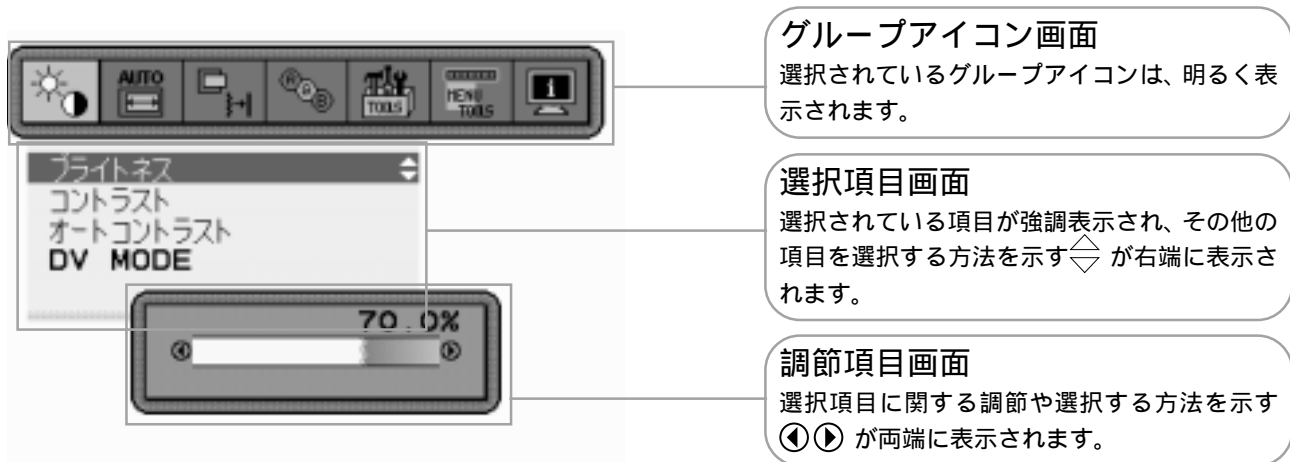
- 次の場合、自動調節がうまく機能しないことがあります。各調節項目を個別に調節してください。*（→ P19）*
  - DOS プロンプトのように文字表示のみの場合や画面いっぱいに画像が表示されていない
  - 白い部分が極端に少ない画像を表示している

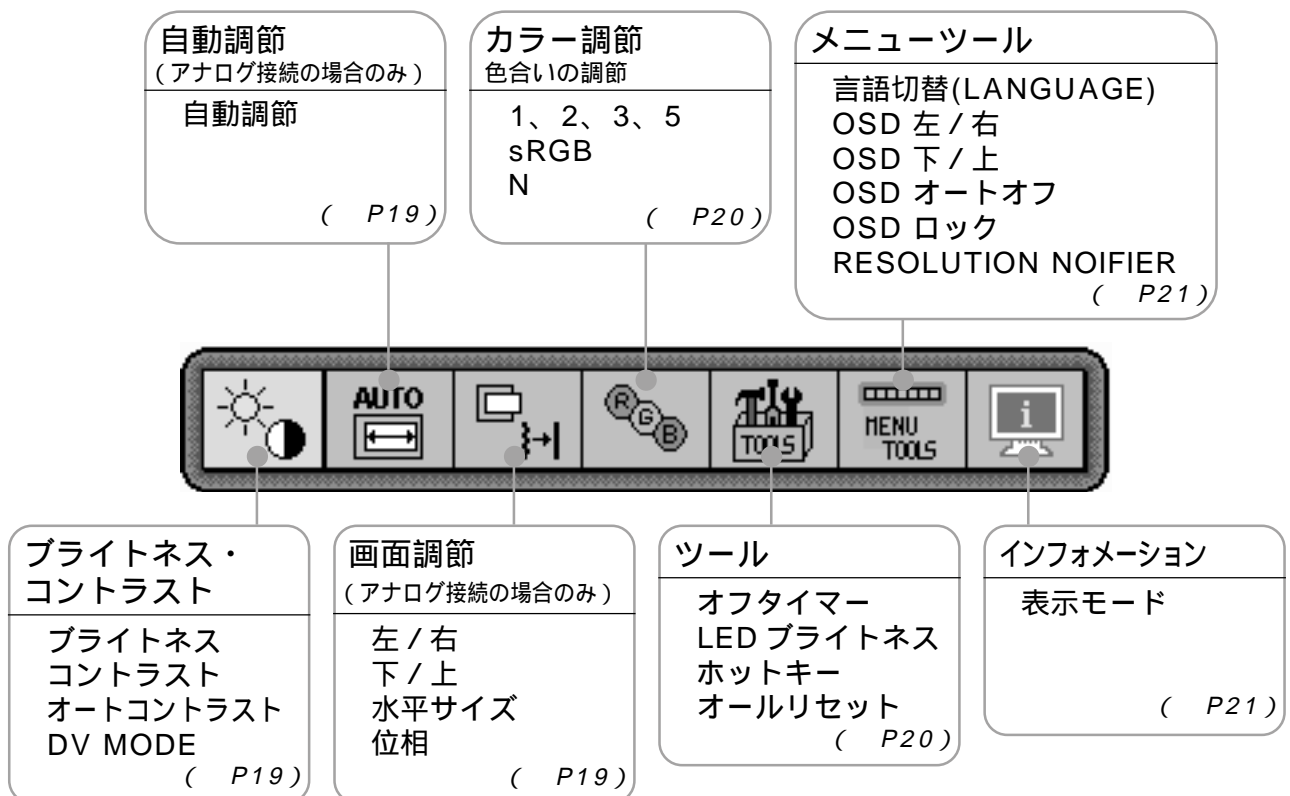
設置接続

画面調節（OSD 機能）

本機には画面の調節が簡単にできるOSD（On Screen Display）機能がついています。
OSD 機能により画面上に表示されるメニューを操作し、明るさなどの画面調節等をおこないます。

OSD 画面の構成

OSD 画面は、以下に示すような構成になっています。

グループアイコンの構成

各グループアイコンは以下に示すような構成になっています。選択項目の詳細については、各グループアイコンの説明ごとに記載されているページをご覧ください。

お知らせ

本機は一般的なコンピューター（→ P2）と、「デジタル接続」した場合は、自動的に適切な画面を表示します。「アナログ接続」でも自動調節すれば自動的に適切な画面を表示します。（→ P16）

ただし、コンピューターによっては画面にちらつきや、にじみが生じることがあります。また、入力信号によってはうまく表示できないこともあります。その場合はOSD 機能を使用して画面の調節（→ P19）をおこなってください。この場合、調節後の画面情報が記憶されます。

OSD 画面の基本操作

ここでは、OSD 画面の基本操作のしかたをコントラストを調節する場合を例にとって説明します。その他の選択項目の詳細内容については「OSD 機能の各選択項目について」*(→ P19)* をご覧ください。

例：コントラストを調節して 100%にする

1 MENU/EXIT ボタンを押して OSD 画面を表示する

現在選択中のグループアイコンが明るく表示されます。

お知らせ

- もう一度 MENU/EXIT ボタンを押すと OSD 画面が消えます。
- OSD 画面の表示位置は変えることができます。選択項目の「メニューツール」*(→ P21)* をご覧ください。
- 他のグループアイコンを選ぶ場合は、下の例のように ボタンを◀▶方向に動かして左右に移動します。

例：カラー調節を選ぶ

3 つ移動

2 ボタンを ▼ 方向に動かして選択項目画面に入る

現在選択中の選択項目が青色に反転表示され、調節項目画面が表示されます。

お知らせ

- 途中で作業をやめる場合はMENU/EXITボタンを押すとグループアイコン画面に戻ります。

3 ボタンを ▼ 方向に動かして「コントラスト」を選択する

お知らせ

- 途中で作業をやめる場合はMENU/EXITボタンを押すとグループアイコン画面に戻ります。

4 ボタンを◀▶方向に動かしてコントラストを調節する

お知らせ

- ここで設定したブライトネス、コントラスト、DV MODE、画面調節、カラー調節（1、2、3、5 のみ）、OSD 画面表示位置、OSD オートオフ、オフタイマー、LED ブライトネスは、「オールリセット」で出荷時の状態に戻すことができます。*(→P20)*

5 MENU/EXITボタンを2回押してOSD画面を消す

1 回押すと選択項目画面に戻り、2 回目で OSD 画面が消えます。

お知らせ

- ボタンを ▲ 方向に動かして選択項目画面からグループアイコン画面に戻ることもできます。

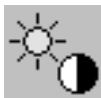
以上でコントラストの調節は完了です。

お知らせ

- 本体正面のボタンのいずれも押さず、OSD オートオフ *(→ P21)* で設定された時間が経過すると、OSD 画面は自動的に消えます。
- 調節する項目によっては、OSDメッセージが表示され、メッセージ内で操作方法を指示しているものがあります。その場合はメッセージの指示に従って操作してください。

OSD 機能の各選択項目について　ここでは、各選択項目の詳細内容を説明します。

ブライトネス・コントラスト

■ **ブライトネス**

調節バー（0.0％～100.0％）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして画面をお好みの明るさに調節してください。

■ **コントラスト**

調節バー（0.0％～100.0％）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして画面をお好みのコントラストに調節してください。

■ **オートコントラスト（アナログ接続の場合のみ）**

コントラストを自動調節します。自動調節の詳しい手順については「自動調節をする」***(→P16)***をご覧ください。

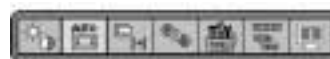
■ **DV MODE（Dynamic Visual Mode）**

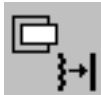
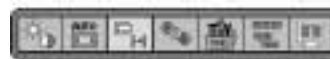
DV MODE をお好みに応じて切り替えます。

スタンダード： 標準の設定です。
テキスト： 画面の明るさを抑えた、通常のワープロや表計算ソフト等に適した設定です。
ムービー： 暗いシーンの階調表現力を引き上げ、奥行き感を再現する映画に適した設定です。
ゲーム： 全体の明るさを引き上げ、より迫力ある画像を提供するゲームに適した設定です。
フォト： 白黒にメリハリをつけた、自然画、静止画に適した設定です。

お知らせ

- OSD画面が表示されていない状態でRESET/DV MODEボタンを押すと、直接DV MODEの切り替えができます。RESET/DV MODE ボタンを押すごとに「スタンダード」→「テキスト」→「ムービー」→「ゲーム」→「フォト」→「スタンダード」…の順に切り替わります。
- DV MODE「ムービー」、「ゲーム」、「フォト」が選択されるとカラー調節は N（NATIVE）になります。

自動調節（アナログ接続の場合のみ）

■ **自動調節**

左右、上下方向の表示位置、水平サイズや位相を自動調節します。自動調節の詳しい手順については「自動調節をする」***(→P16)***をご覧ください。

画面調節（アナログ接続の場合のみ）

■ **左／右**

調節バー（0.0％～100.0％）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして左右方向の表示位置を調節してください。

■ **下／上**

調節バー（0.0％～100.0％）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして上下方向の表示位置を調節してください。

■ **水平サイズ**

画面に縦縞が現われるときや左右の画面サイズがあっていないときに調節します。調節バー（0.0％～100.0％）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして水平サイズを調節してください。

■ **位相**

画面に横方向のノイズが表示されたり、文字のにじみ、輪郭のぼやけが起こった場合は位相を調節します。調節バー（0.0％～100.0％）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして位相を調節してください。

カラー調節

お好みに応じて画面の色合いを調節することができます。色の割合を変更した値を保存することもできます。

お知らせ

● DV MODE「ムービー」、「ゲーム」、「フォト」が選択されていると、カラー調節は自動的にN（NATIVE）になり、変更できません。

■ **1、2、3、5**

お好みに応じて設定できる色合いが4種類用意されています。

1、2、3、5 の各設定値は◯ボタンを▲▼方向に動かすと、RED：赤、GREEN：緑、BLUE：青のそれぞれの色について色の割合が調節できます。

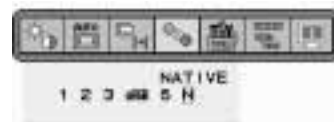
お知らせ

RESET/DV MODEボタンを押した後、SELECT/1↔2ボタンを押すと、色の設定を工場設定値に戻します。

■ **sRGB**

色再現国際規格sRGB ***（→P29）***に対応した色で表現します。（RGBの値は調節できません）

■ **N（NATIVE）**

液晶パネル本来の色合いで表示します。（RGBの値は調節できません。）

ツール

■ **オフタイマー**

本機の電源を入れたあと、設定された時間になると電源が自動的に切れるようにする機能です。◯ボタンを◀▶方向に動かして1時間から24時間まで、1時間ごとの設定が可能です。電源を切り忘れても自動的に切れるため、電力の削減に有効です。

■ **LEDブライトネス**

調節バー(0.0%〜100.0%)が表示されます。◯ボタンを◀▶方向に動かして電源ランプをお好みの明るさに調節してください。

■ **ホットキー**

ホットキー機能をオンにすると、OSDが表示されていない状態で◯ボタンを操作してブライトネスとコントラストを直接調節できるようにすることができます。◯ボタンを◀▶方向に動かしてホットキーのオン／オフを切り替えてください。

ホットキー オン時： 1.◯ボタンを▲▼方向に動かしてコントラストまたはブライトネスを選択する
2.◯ボタンを◀▶方向に動かして選択された項目を調節する

■ **オールリセット**

ブライトネス、コントラスト、DV MODE、画面調節、カラー調節（1、2、3、5のみ）、OSD画面表示位置、OSDオートオフ、オフタイマー、LEDブライトネスを出荷時の状態に戻すことができます。画面の表示にしたがって操作してください。

メニューツール

■ **言語切替（LANGUAGE）**
OSD画面の表示言語のリストが表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして表示言語を切り替えてください。

■ **OSD左/右**
OSD画面を表示する位置を左右に移動します。調節バー（0.0%～100.0%）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして画面をお好みの位置（左右方向）に調節してください。

■ **OSD下/上**
OSD画面を表示する位置を上下に移動します。調節バー（0.0%～100.0%）が表示されます。ボタンを◀▶方向に動かして画面をお好みの位置（上下方向）に調節してください。

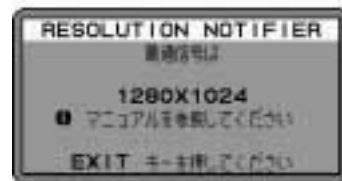
■ **OSDオートオフ**
OSD画面を表示させたあと、設定された時間になるとOSD画面が自動的に消えるようにする機能です。ボタンを◀▶方向に動かして10秒から120秒まで、5秒ごとの設定が可能です。

■ **OSDロック**
誤って調節してしまうことを防ぐためのOSD画面操作禁止機能です。OSDロック中でもブライトネスとコントラストは調節可能です。

OSDロックの設定
OSD画面を表示し、メニューツールのOSDロックが選択されている状態でSELECT/1↔2ボタンを押しながらボタンを▶方向に動かしてください。

OSDロックを解除する
右のようなOSDロック状態画面を表示させた状態で、SELECT/1↔2ボタンを押しながらボタンを◀方向に動かしてください。

OSDロック設定後のOSD画面

■ **RESOLUTION NOTIFIER**
最適の解像度以外の信号を入力している場合、推奨信号の案内画面を表示する機能をオン/オフします。
右のような画面が表示される場合、これを表示しないようにするためには、オフを選択してください。
操作の手順については、「OSD画面の基本操作」*(→P18)*を参考にしてください。

RESOLUTION NOTIFIERの案内画面

インフォメーション

■ **表示モード**
入力している信号の情報、MODEL（形名）とSERIAL NUMBER（製造番号）を表示します。

RDT1712Sの場合の表示例

<工場プリセットタイミング>

- 入力信号の識別は、水平周波数・垂直周波数・同期信号極性・同期信号タイプによりおこなっています。
- 本機は20種類のタイミングを記憶できる機能があります（ユーザーメモリー機能）。記憶させたい信号を入力し、OSD機能でお好みの画面に調節*(→P19)*するとタイミングおよび画面情報が自動的に記憶されます。
- 「オールリセット」を実行すると全てのユーザーメモリーに記憶された値が消去されます。
- 本機は水平周波数：31.5～81.1kHz、垂直周波数：56～75Hz対応となっていますが、この範囲内であっても入力信号によっては正しく表示できない場合があります。
  この場合は、コンピューターの周波数、または解像度を変更してください。
- インターレース信号には対応していません。
- 複合同期信号、シンクオングリーン信号には対応していません。

	解像度	周波数	
		水平	垂直
1	640 x 480 (Mac)	35.0kHz	66.7Hz
2	832 x 624 (Mac)	49.7kHz	74.5Hz
3	1152 x 870 (Mac)	68.7kHz	75.0Hz
4	720 x 350	31.5kHz	70.1Hz
5	720 x 400	31.5kHz	70.1Hz
6	640 x 480	31.5kHz	59.9Hz
7	640 x 480	37.9kHz	72.8Hz
8	640 x 480	37.5kHz	75.0Hz
9	800 x 600	35.2kHz	56.3Hz
10	800 x 600	37.9kHz	60.3Hz

	解像度	周波数	
		水平	垂直
11	800 x 600	48.1kHz	72.2Hz
12	800 x 600	46.9kHz	75.0Hz
13	1024 x 768	48.4kHz	60.0Hz
14	1024 x 768	56.5kHz	70.1Hz
15	1024 x 768	60.0kHz	75.0Hz
16	1152 x 864	67.5kHz	75.0Hz
17	1280 x 960	60.0kHz	60.0Hz
18	1280 x 960	75.0kHz	75.0Hz
19	※1280 x 1024	64.0kHz	60.0Hz
20	1280 x 1024	80.0kHz	75.0Hz

※推奨信号タイミング

お知らせ

- 解像度1280×1024以外の信号を入力した場合は、文字がにじんだり図形が歪んだりすることがあります。

その他の機能について

ここでは、本機のOSD機能以外の機能について説明しています。

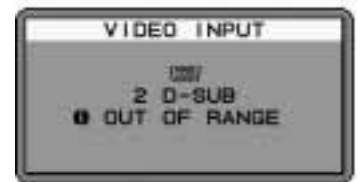
拡大・スムージングファイン機能

1280ドット×1024ラインより低い解像度の画面を自動的に拡大して表示する機能です。ギザギザ感の少ないなめらかな画像とカケの少ない文字を表示します。

お知らせ

- 入力信号によっては、画面全体に拡大されない場合があります。

簡易表示機能

本機が対応する解像度よりも高い解像度の信号が入力された場合に、自動的に画面を縮小表示する機能です。
OSD画面の注意画面を表示するとともに「簡易表示機能」により画面を縮小表示しますので、他の高解像度ディスプレイを接続することなく、本機が対応する解像度にコンピューターの設定を変更することができます。

OSD画面の注意画面

お知らせ

- 入力信号によっては、本機能が正常に動作しない場合があります。
- 75Hzより高い垂直同期信号では動作しません。

Plug&Play機能

VESAのDDC（Display Data Channel）2B規格に対応したコンピューターと接続した場合には、本機の表示画素数、周波数、色特性などの情報をコンピューターが読み出し、本機に最適な画面が自動的に設定されます。
詳しくはコンピューターの取扱説明書をご覧ください。

ノータッチオートアジャスト機能（NTAA: No Touch Auto Adjust）（800×600以上の解像度のみ）

ユーザーメモリーに記憶されていない種類のアナログ信号が入力されると自動調節が実行されます。入力されたアナログ信号を本機のマイコンが検出し、左右方向の表示位置、上下方向の表示位置、水平サイズおよび位相の自動調節を開始します。自動調節中は「実行中」の文字が表示されます。

自動入力選択機能（2系統入力時）

ビデオ信号の入力の有無によって自動的にビデオ信号の入力がある方を表示する機能です。
2台のコンピューターを本機につなぎ、同時に使用している場合、SELECT/1↔2ボタンを押さなくても、現在表示中のコンピューターの電源が切れると自動的にもう一方のコンピューターの画面に切り替わります。

パワーマネージメント機能

コンピューターを使用しないときに本機の消費電力を減少させる機能です。

お知らせ

- この機能はVESA DPM対応パワーマネージメント機能を搭載しているコンピューターと接続して使用する場合にのみ機能します。

パワーマネージメント機能が作動している場合の消費電力と電源ランプの点灯状態は以下の通りです。

モード	消費電力				電源ランプ
通常動作時	**RDT1712V**：31W	**RDT1712S**：31W	**RDT196V**：37W	**RDT196S**：52W	青色点灯※
パワーセーブモード時	2W以下				橙色点灯
主電源スイッチOFF時	1W以下				点灯なし

※LEDブライトネス調節機能(P20)で輝度を下げている時は、点灯しない場合があります。

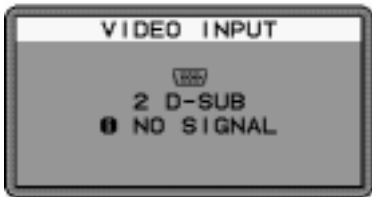
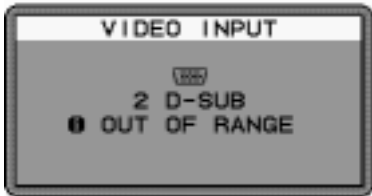
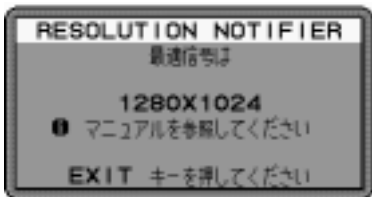
水平または垂直同期信号がOFF状態になっているにもかかわらず、ビデオ信号（R, G, B）が出力されているようなコンピューターについては、パワーマネージメント機能が正常に作動しない場合があります。

お知らせ

- キーボードの適当なキーを押すかマウスを動かすと、画面が復帰します。
  画面が復帰しない場合またはパワーマネージメント機能のないコンピューターと接続して使用の場合、信号ケーブルが外れているかコンピューターの電源が「切」になっていることが考えられますので、ご確認ください。

故障かな？と思ったら…

このようなときは、チェックしてください。

表示されないときは…

症　状	状　態	原因と対処	参照
画面に何も映らない	電源ランプが点滅している場合	本機の故障である可能性があります。販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。	P26
	電源ランプが点灯しない場合	電源スイッチが入っていない可能性がありますので、確認してください。	P8
		電源コードが正しく接続されていない可能性がありますので、確認してください。	P12
		電源コンセントに正常に電気が供給されているか、別の機器で確認してください。	
		電源コードをコンピューターの本体のコンセントに接続している場合は、コンピューターの電源を入れていない可能性があります。コンピューターの電源が入っているか確認してください。	
		主電源スイッチがオフになっている可能性がありますので、確認してください。	P9
		LED ブライトネス調節機能で輝度を下げていると電源ランプが点灯しない場合がありますので、確認してください。	P20, 22
	電源ランプが青色に点灯している場合	OSD 画面を表示し、以下の項目を確認してください。	P18
		●OSD画面が表示されない場合は故障の可能性があります。販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。	P26
		● 正常な状態でOSD画面が表示されれば故障ではありません。「ブライトネス・コントラスト」の「ブライトネス」と「コントラスト」を調節してください。	P19
		● OSD画面が正常に表示され、「ブライトネス」と「コントラスト」を調節してもコンピューターの画面が表示されない場合は、コンピューターとの接続、コンピューターの周波数、解像度、出力信号の種類を確認してください。	P11, 21
	電源ランプが橙色に点灯している場合	パワーマネージメント機能が作動している可能性があります。キーボードの適当なキーを押すか、マウスを動かしてください。	P22
		信号ケーブルが本機またはコンピューターのコネクターに正しく接続されていない可能性がありますので、確認してください。	P11
		変換アダプターが正しく接続されていない可能性がありますので、確認してください。	P11
		コンピューターの電源が入っていない可能性がありますので、確認してください。	
画面が表示しなくなった	正常に表示されていた画面が、暗くなったり、ちらつくようになったり、表示しなくなった場合※	新しい液晶パネルとの交換が必要です。販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。	P26

※ 液晶ディスプレイに使用している蛍光管（バックライト）には寿命があります。

表示がおかしいときは…

症　状	原因と対処	参照
画面上に黒点（点灯しない点）や輝点（点灯したままの点）がある	液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	P2
画面表示の明るさにムラがある	表示内容によってはこのような症状が生じることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	
画面に薄い縦縞の陰が見える	表示内容によってはこのような症状が生じることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	
細かい模様を表示するとちらつきやモアレが生じる	細かい模様を表示するとこのような症状が生じることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	
線の太さなどがぼやける	1280×1024以外の解像度の画像を表示すると、このような症状が生じることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	
表示エリア外の非表示部分に「残像」が生じる	表示エリアが画面いっぱいでない場合、長時間表示すると、このような症状が生じることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	P30
画面を見る角度によって色がおかしい	視野角（画面を見る角度）によっては、色相の変化が大きくなります。	P30,31,32
画面の表示状態が変わっていく	液晶パネルは蛍光灯を使用しているため、使用時間の経過に伴い表示状態が少しずつ変化します。また周囲の温度によっては画面の表示状態に影響を受けることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、故障ではありません。	
画面を切り替えても前の画面の像が薄く残っている	長時間同じ静止画面を表示すると、このような「残像」という現象が起こることがあります。電源を切るか変化する画面を表示していれば像は1日程度で消えます。	P30
表示色がおかしい	OSD 画面を表示し、以下の項目を確認してください。	P18
	● OSD画面が正常に表示されない場合は故障の可能性があります。販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。	P26
	● 正常な状態でOSD画面が表示されれば故障ではありません。「カラー調節」を選択しお好みで色の割合を調節していただくか、またはRESET/DV MODE ボタンで工場設定値に戻してください。	P20
	● OSD 画面が正常に表示され、「カラー調節」を調節してもコンピューターの画面が正常に表示されない場合は、コンピューターとの接続、コンピューターの周波数、解像度、出力信号の種類を確認してください。	P11, 21
画面がちらつく（分配器を使用している場合）	分配器を中継させず、コンピューターと直に接続してください。	P11
画面がちらつく（上記以外の場合）	OSD 画面を表示し、以下の項目を確認してください。	P18
	● OSD画面が正常に表示されない場合は故障の可能性があります。販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。	P26
	● 正常な状態でOSD画面が表示されれば故障ではありません。「画面調節」の「位相」を選択し調節してください。	P19
	● OSD 画面が正常に表示され、「位相」を調節してもコンピューターの画面が正常に表示されない場合は、コンピューターとの接続、コンピューターの周波数、解像度、出力信号の種類を確認してください。	P11, 21

案内画面／注意画面が表示されたら…

症　状	原　因	対　処	参照
画面に「NO SIGNAL」が表示された！※1 VIDEO INPUT 2 D-SUB NO SIGNAL	信号ケーブルが本機またはコンピューターのコネクターに正しく接続されていない可能性があります。	信号ケーブルを本機およびコンピューターのコネクターに正しく接続してください。	P11
	信号ケーブルが断線している可能性があります。	信号ケーブルが断線していないか確認してください。	
	電源ランプが橙色に点灯している場合は、コンピューターの電源が切れている可能性があります。	コンピューターの電源が入っているか確認してください。	
	コンピューターのパワーマネージメント機能が作動している可能性があります。	マウスを動かすかキーボードのキーを押してください。	P22
画面に「OUT OF RANGE」が表示された！※2 VIDEO INPUT 2 D-SUB OUT OF RANGE	本機に適切な信号が入力されていない可能性があります。	入力周波数またはコンピューターの解像度を変更してください。	P21
	本機の対応する解像度よりも高い解像度の信号を入力しています。	入力周波数またはコンピューターの解像度を変更してください。	P21
画面に「RESOLUTION NOTIFIER」が表示された！ RESOLUTION NOTIFIER 最適信号は 1280X1024 マニュアルを参照してください EXIT キーを押してください	ご使用のコンピューターから出力されている解像度の信号が推奨サイズ以外に設定されています。	コンピューター本体の解像度を1280×1024にしてください。そのままの解像度をお使いでこれを表示させたくない場合は、RESOLUTION NOTIFIERをオフ（非表示）に設定してください。	P21

※1 コンピューターによっては、解像度や入力周波数を変更しても正規の信号がすぐに出力されないため、注意画面が表示されることがありますが、しばらく待って画面が正常に表示されれば、入力信号は適正です。
※2 コンピューターによっては電源を入れても正規の信号がすぐに出力されないため、注意画面が表示されることがありますが、しばらく待って画面が正常に表示されれば入力信号の周波数は適正です。

その他

症　状	原　因	対　処
解像度や色数の変更ができない／固定されてしまう	うまく信号が入出力できないことがまれにあります。	本機とコンピューターの電源をいったん切り、もう一度電源を入れ直してください。
	Windows®をご使用の場合は、Windows®セットアップ情報のインストールが必要な可能性があります。	付属のユーティリティーディスクのWindows®セットアップ情報をコンピューターにインストールしてください。**（→ P15）**
	Windows®セットアップ情報をインストールしても設定の変更が不可能な場合、またはWindows®以外のOSをご使用の場合は、グラフィックボードのドライバーがOSに正しく認識されていない可能性があります。	グラフィックボードのドライバーを再インストールしてください。再インストールに関しては、コンピューターのマニュアルをご参照いただくか、コンピューターのサポート機関にお問い合わせください。

その他

症　状	原因	対処	参照
接続しているUSB対応周辺機器が認識されない。正常に動作しない。	USB対応周辺機器のデバイスドライバーが正常に組み込まれていない（ドライバーインストールが必要なUSB対応周辺機器のみ）	USB対応周辺機器のデバイスドライバーを組み込んでください。デバイスマネージャーで「不明なデバイス」と表示される場合は、「不明なデバイス」をデバイスマネージャー上で削除し、USB対応周辺機器のデバイスドライバーを組み込んでください。	USB対応周辺機器の取扱説明書を参照してください。
複数のUSB対応周辺機器を接続すると、USB対応周辺機器が正常に動作しない。	USB対応周辺機器が同時に複数台接続することに対応していない。	１つ１つのUSB対応周辺機器を単独で動作させてください。	
USBハブを多段接続（複数台の連結接続）した後に、USB対応周辺機器を接続すると、USB対応周辺機器が正常に動作しない。	USB対応周辺機器が、USBハブの多段接続に対応していない。	USB対応周辺機器をコンピューターに近いUSBハブに接続してください。	

お知らせ

● WINDOWS3.1やWINDOWS NT3.51、WINDOWS95(OSR1など)ではUSB対応周辺機器はご利用できません。

本機を廃棄するには（リサイクルに関する情報）

当社は環境保護に強く関わっていきます。環境に対する影響を最小限にするために、リサイクルシステムを会社の最重要課題の一つとして考えております。また、環境に優しい商品の開発と常に最新のISOやTCOの標準に従って行動するよう努力しています。当社の使用済みディスプレイのリサイクルシステムの詳細については当社インターネットホームページをご覧ください。

http://www.MitsubishiElectric.co.jp/home/display/env.html

なお、資源有効利用促進法に基づく当社の使用済みディスプレイのリサイクルのお申し込みは下記へお願いします。

情報機器リサイクルセンター	
家庭系（個人ユーザー様）の窓口	**事業系（法人ユーザー様）の窓口**
TEL **03-3455-6107** URL **http://www.pc-eco.jp**	TEL **03-3455-6106** URL **http://www.diarcs.com**
受付時間　土・日・祝日を除く　午前9:00～午後5:00 また、これ以外の所定の休日につきましても休ませていただきますので、ご容赦願います。	

ディスプレイの回収・リサイクル

資源有効利用促進法に基づき、家庭から出される使用済みディスプレイの回収・リサイクルをおこなう“PCリサイクル”が2003年10月より開始されました。当社ではこれを受け、回収・リサイクル体制を構築し、2003年10月1日より受付しております。2003年10月以降購入されたディスプレイのうち、銘板に“PCリサイクル”が表示されている商品※は、ご家庭からの排出時、当社所定の手続きにより新たな料金負担なしで回収・リサイクルいたします。事業者から排出される場合は、産業廃棄物の扱いとなります。
※“PCリサイクル”の表示のない商品は、排出時、お客様に回収・リサイクル料金をご負担頂きますので、あらかじめご了承ください。

保証とアフターサービス

● この商品には保証書を添付しています。
保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。
内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。
● 保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店または「修理相談窓口」にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
● その他、アフターサービスについてご不明の場合は、お買上げの販売店か、「修理相談窓口（フリーダイヤル：0120-08-1460）」へご相談ください。

アフターサービスを依頼される場合はつぎの内容をご連絡ください。
- **お名前**
- **ご住所（付近の目標など）**
- **電話番号**
- **製造番号（本機背面のラベルに記載）**
- **故障の症状、状況など（できるだけ詳しく）**
- **購入年月日または使用年数**
- **品名：　三菱液晶ディスプレイ**
- **形名：　RDT1712V/RDT1712V(BK) / RDT1712S/RDT1712S(BK)**
RDT196V/RDT196V(BK) / RDT196S/RDT196S(BK)

困ったとき

市販のアームを取り付けるとき

本機にはVESA規格に準拠した（100mmピッチ）市販のアームを取り付けることができます。

お願い

- アームは本機を支えるのに十分なものを選んでください。
- ボタン類をテーブルなどにあてないように注意してください。

ディスプレイ部の質量

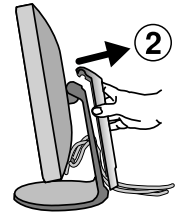
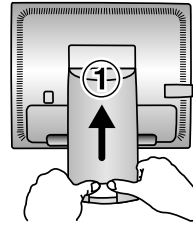
RDT196Vシリーズ/RDT196Sシリーズ	約4.8kg
RDT1712Vシリーズ/RDT1712Sシリーズ	約4.0kg

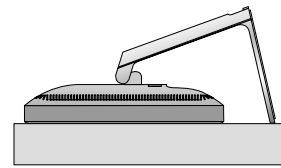
アームを取り付ける際は、下記要領で取り付けてください。

スタンドの取り外し方

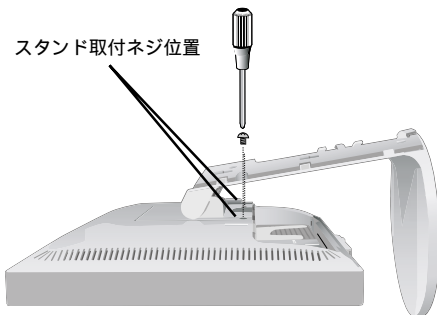
1 **ケーブルカバーを外す**

⚠注意

- 取り外しは右図のように両手でおこなってください。
- 取り付け、取り外しの際は、ケーブルカバーに顔を近づけたり、爪をかけたりしないでください。ケーブルカバーが急に外れたりして、ケガの原因になります。
- 取り付け、取り外しの際は、ケーブルカバーに指をはさまないように気を付けてください。けがの原因となることがあります。

2 **本機、コンピューターおよび周辺機器の電源を切ってから、信号ケーブル、電源ケーブルを取り外す**

3 **平らで安定した場所に柔らかい布を敷き、液晶パネルを下向きにして置く**

4 **スタンドを取り付けている2本のネジを、取り外す**
スタンドを外すとアームの取り付け用にもう2本のネジがありますので、そのネジも取り外してください。

お願い

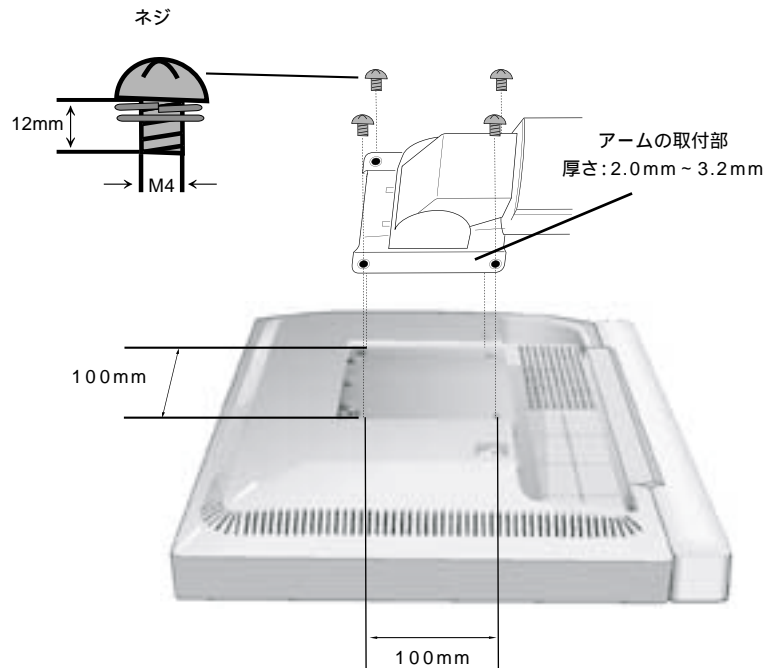
- スタンドを取り付ける場合は、逆の手順でおこないます。その際は必ずスタンド取り付けに使用していたネジをお使いください。それ以外のネジを使用した場合は、本機が故障する原因になる恐れがあります。
- ネジを締め付ける際はつけ忘れに注意し、すべてのネジをしっかりと締め付けてください。なお、スタンドの取り付けはお客様の責任においておこなうものとし、万一事故が発生した場合、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。

アームの取り付け方

1 以下の要領でアームを取り付ける

取付可能アーム：
　取付部厚み 2.0mm ～ 3.2mm
　VESA 規格準拠
　（100mm 取付ピッチ）
ネジゆるみ防止のためすべてのネジをしっかりと締めてください。（ただし、締め付けすぎるとネジがこわれることがあります。98～137N・cmが適切な締付トルクです。）

※ 上記アームの取付部形状は参考例です。

お願い

- 液晶ディスプレイを倒したまま固定できないときは、2人以上で取り付け作業をおこなってください。落下してけがの原因となります。
- 取り付け作業をおこなう前に、アームの取扱説明書を必ず読んでください。
- アームの取り付けはお客様の責任においておこなってください。
  万一事故が発生した場合でも、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。
- アームを取り付ける際は、必ず右図に記載する仕様のネジをお使いください。
  それ以外のネジを使用した場合は、本機が故障する原因になる恐れがあります。

用語解説

ここでは、本書で使用している専門的な用語の簡単な解説をまとめてあります。また、その用語が主に使用されているページを掲載しておりますので、用語から操作に関する説明をお探しいただけます。

2 系統入力　P11, 22
2 台のコンピューターを接続するための入力端子を 2 つ装備していることを表します。

DDC 2B 規格（Display Data Channel）P22
VESA が提唱する、ディスプレイとコンピューターとの双方向通信によってコンピューターからディスプレイの各種調節機能を制御する規格です。

DDC/CI 規格（Display Data Channel Command Interface）
ディスプレイとコンピューターの間で、設定情報などを双方向でやり取りできる国際規格です。この規格に準拠した制御用ソフト「Visual Controller」*(→ P29)* を使えば、ディスプレイの前面ボタンだけではなく、色や画質の調節などがコンピューターの側から操作できます。

DPM（Display Power Management）P22
VESA が提唱する、ディスプレイの省エネルギー化に関する規格です。DPM では、ディスプレイの消費電力状態をコンピューターからの信号により制御します。

DV MODE（Dynamic Visual Mode）　P8, 19
表示する内容に合わせて 5 種類の最適画質を選べる機能で「スタンダード」、「テキスト」、「ムービー」、「ゲーム」、「フォト」の中からお選びいただけます。

DVI-A 端子（Digital Visual Interface-Analogue）　P11
アナログ入力のみに対応している DVI 端子です。

DVI-D 端子（Digital Visual Interface-Digital）　P2, 9 ～ 11
デジタル入力のみに対応している DVI 端子です。

DVI-I 端子（Digital Visual Interface-Integrated）　P2, 10, 11
デジタル入力とアナログ入力の両方に対応している DVI 端子です。どちらかの入力を接続するケーブルあるいは変換アダプターによって使い分けが可能となります。

LED ブライトネス　P20
電源ランプの輝度を調節する機能です。

Plug&Play　P22
Windows® で提唱されている規格です。ディスプレイをはじめとした各周辺機器をコンピューターに接続するだけで設定をせずにそのまま使えるようにした規格のことです。

RESOLUTION NOTIFIER　P14, 21, 25
最適な解像度以外の信号をコンピューターで設定している場合に、推奨信号の案内を画面に表示する機能です。

sRGB 規格　P20
IEC（International Electrotechnical Commission）により規定された色再現国際規格です。sRGB 対応のディスプレイなら、ネットワーク上でどのディスプレイでも色調を揃えることができる規格で、対応プリンター、スキャナー、デジタルカメラなどとの色合わせもしやすくなります。

USB（Universal Serial Bus）　P2,3,9,12,14,15
コンピューターと周辺機器(マウスやジョイスティック、プリンターなど)を接続するためのインターフェイスの規格です。WindowsXP,Windows2000,Windows98を搭載したコンピューターやPower Macintoshの新製品などで採用されています。

USB ハブ　P2, 9, 14, 15
1 つの USB ポートを複数の USB ポートに分岐する機能または機器です。RDT196Sが内蔵しているUSBハブは、1 つの USB ポートを 4 つの USB ポートに分岐することができます。

VESA 規格（Video Electronics Standards Association）　P22, 27
ビデオとマルチメディアに関連する標準の確立を目的として提唱された規格です。

Visual Controller
当社オリジナルの、DDC/CI *(→ P29)* 国際規格に準拠した制御用ソフトです。当社ホームページより無料ダウンロードし、コンピューターにインストールしてください。

位相　P19
アナログ信号をきれいに表示するための調節項目の 1 つです。これを調節することにより、文字のにじみや横方向のノイズをなくしたりすることができます。

エネルギースタープログラム　P4, 31, 32
デスクトップコンピューターの消費電力を節減するために、米国の環境保護局（EPA：Environmental Protection Agency）が推し進めているプログラムのことです。

応答速度 P31, 32

表示している画面を変化させた時の画面の切り替わりの速さ（追従性）のことで、数値が小さいほど応答速度は速くなります。応答速度は黒→白→黒の階調変化に要する時間の合計で表す場合が一般的ですが、動画表示には中間階調間での階調変化に要する時間が短いことが要求されるようになってきました。これを応答速度（GTG）と表す場合があります。

輝度 P31, 32

単位面積あたりの明るさを示す度合いのことで、数値が高いほど表示画面が明るくなります。

コントラスト比 P31, 32

白と黒の明るさの比率を示す比率のことで、輝度が同じであれば、数値が大きくなるほど画面にメリハリが出ます。

残像 P24

残像とは、長時間同じ画面を表示していると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残る現象です。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると残像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使い方は避けてください。「スクリーンセーバー」などを使用して画面表示を変えることをおすすめします。

視野角 P24, 31, 32

斜めから見た場合など、正常な画像が見られる角度のことで、数値が大きいほど広い範囲から画像が見られます。

水平周波数／垂直周波数 P21, 31, 32

水平周波数：1 秒間に表示される水平線の数のことで、水平周波数 31.5kHz の場合、1 秒間に水平線を 31,500 回表示するということです。

垂直周波数：1 秒間に画面を何回書き換えているかを表します。垂直周波数が 60Hz の場合、1 秒間に画面を 60 回書き換えているということです。

チルト／スイーベル角度 P14, 31, 32

チルト角度：ディスプレイ画面の前後に動かせる角度のことです。

スイーベル角度：ディスプレイ画面の水平方向の回転角度のことです。

ノータッチオートアジャスト／NTAA (No Touch Auto Adjust) P22

コンピューターから新しい信号を受信するたびに自動的に画面を最適な状態にする機能です。

パワーマネージメント機能 P22

コンピューターの消費電力を低減するために組み込まれた機能です。コンピューターが一定時間使用されていない（一定時間以上キー入力がないなど）場合に、電力消費を低下させます。再度コンピューターが操作されたときには、通常の状態に戻ります。

表示画素数／解像度 P21, 22, 31, 32

一般的には「解像度」と呼ばれています。1 画面あたりの横方向と縦方向の画素の数を表します。表示画素数が大きいほど多くの情報量を表示することができます。

仕様

形名			RDT1712S / RDT1712S（BK）	RDT1712V / RDT1712V（BK）
サイズ（表示サイズ）			17 型（43.2cm）	
有効表示領域			337.9 × 270.3mm	
表示画素数			1280 × 1024	
画素ピッチ			0.264mm	
表示色			約 1619 万色	
視野角（標準値）※			左右 170°、上 85°、下 70°	
輝度（標準値）			400cd/m²	300cd/m²
コントラスト比（標準値）			700：1	
応答速度			8ms（GTG 4ms ※）	
PC 入力	水平周波数		31.5 ～ 81.1kHz	
	垂直周波数		56 ～ 75Hz	
	ビデオ信号		デジタル RGB、アナログ RGB	
	同期信号		セパレート同期信号（TTL）	
	信号入力コネクター		DVI-D、ミニ D-SUB15 ピン	
適合規格等	パワーセーブ		国際エネルギースタープログラム	
	安全		UL60950-1、c-UL	
	不要輻射		VCCI-B、低周波電磁界ガイドライン、FCC、CE、MPR Ⅲ、DOC	
	プラグ＆プレイ		VESA DDC2B	
	その他		PC グリーンラベル、グリーン購入法、DDC/CI、TCO '03（ホワイトモデル）、TCO '99（ブラックモデル）	
使用環境条件	温度		5 ～ 35℃	
	湿度		30 ～ 80%（結露のないこと）	
保管環境条件	温度		－ 10 ～ 60℃	
	湿度		10 ～ 85%（結露のないこと）	
電源	電源入力		AC100-240V　50/60Hz	
	消費電力	標準	31W	
		パワーセーブ時	2W 以下	
	電源入力コネクター		3P IEC タイプ	
質量			約 5.7kg（スタンドなし約 4.0kg）	
梱包状態（質量 / 寸法）			約 8.2kg/454（W）× 510（H）× 229（D）mm	
チルト角度 / スイーベル角度			上 30°、下 5°/340°	
外形寸法			367, 390.5, 203, 60.5, 305, 61.4, 203	

※ 視野角：白と黒のコントラスト比が 5 以上で表示できる角度を示します。
※ 特定階調レベル間 （例：0,31,63,95,127,159,191,223,255）の各応答速度の平均値です。

仕様

形名			RDT196S/RDT196S(BK)	RDT196V/RDT196V(BK)
サイズ（表示サイズ）			19 型（48.2cm）	
有効表示領域			376.32 × 301.056mm	
表示画素数			1280 × 1024	
画素ピッチ			0.294mm	
表示色			約 1677 万色	
視野角（標準値）※			左右 170 °、上 85 °、下 70 °	
輝度（標準値）			400cd/m^2	300cd/m^2
コントラスト比（標準値）			700：1	
応答速度			8ms（GTG 4ms ※）	
PC 入力	水平周波数		31.5 ～ 81.1kHz	
	垂直周波数		56 ～ 75Hz	
	ビデオ信号		デジタル RGB、アナログ RGB	
	同期信号		セパレート同期信号（TTL）	
	信号入力コネクター		DVI-D、ミニ D-SUB15 ピン	
	USB ポート		USB2.0ポート：ダウンストリーム4個 、アップストリーム1個	—
	USB ポート各ダウンストリームコネクター供給電源		5V、500mA(最大)	—
適合規格等	パワーセーブ		国際エネルギースタープログラム	
	安全		UL60950-1、c-UL	
	不要輻射		VCCI-B、低周波電磁界ガイドライン、FCC、CE、MPR III、DOC	
	プラグ＆プレイ		VESA DDC2B	
	その他		PC グリーンラベル、グリーン購入法、DDC/CI、TCO '03（ホワイトモデル）、TCO '99（ブラックモデル）	
使用環境条件	温度		5 ～ 35℃	
	湿度		30 ～ 80%（結露のないこと）	
保管環境条件	温度		－ 10 ～ 60℃	
	湿度		10 ～ 85%（結露のないこと）	
電源	電源入力		AC100-240V 50/60Hz	
	消費電力	標準	52W	37W
		パワーセーブ時	2W 以下	
	電源入力コネクター		3P IEC タイプ	
質量			約 6.5kg（スタンドなし約 4.8kg）	
梱包状態（質量 / 寸法）			約 9.1kg/495（W）× 525（H）× 229（D）mm	
チルト角度 / スイーベル角度			上 30 °、下 5 °/340 °	
外形寸法			412.5 / 66 / 407.3 / 338.5 / 55.9 / 203 / 203	

※ 視野角：白と黒のコントラスト比が 5 以上で表示できる角度を示します。
※ 特定階調レベル間 （例：0,31,63,95,127,159,191,223,255）の各応答速度の平均値です。

RDT1712S/RDT1712V/RDT196S/RDT196Vホワイトモデル

お買い上げいただいた本商品はスウェーデンの労働団体(TCO)が定めた環境規格 TCO '03 ガイドラインに適合しています。TCO '03 ガイドラインは、画面品質、環境保護、低周波漏洩電磁界、安全性、省電力、リサイクル性等、広い分野にわたって規定しています。以下の英文は、TCO が適合商品に英文で添付することを定めた文書で、TCO '03 ガイドラインの目的および要求事項の概要を記述しています。

TCO Development

Congratulations!

The display you have just purchased carries the TCO'03 Displays label. This means that your display is designed, manufactured and tested according to some of the strictest quality and environmental requirements in the world. This makes for a high performance product, designed with the user in focus that also minimizes the impact on our natural environment.

Some of the features of the TCO'03 Display requirements:

Ergonomics

- Good visual ergonomics and image quality in order to improve the working environment for the user and to reduce sight and strain problems. Important parameters are luminance, contrast, resolution, reflectance, colour rendition and image stability.

Energy

- Energy-saving mode after a certain time – beneficial both for the user and the environment
- Electrical safety

Emissions

- Electromagnetic fields
- Noise emissions

Ecology

- The product must be prepared for recycling and the manufacturer must have a certified environmental management system such as EMAS or ISO 14 001
- Restrictions on:
  - chlorinated and brominated flame retardants and polymers
  - heavy metals such as cadmium, mercury and lead.

The requirements included in this label have been developed by TCO Development in co-operation with scientists, experts, users as well as manufacturers all over the world. Since the end of the 1980s TCO has been involved in influencing the development of IT equipment in a more user-friendly direction. Our labelling system started with displays in 1992 and is now requested by users and IT-manufacturers all over the world.

For more information, please visit
www.tcodevelopment.com

RDT1712S/RDT1712V/RDT196S/RDT196Vブラックモデル

TCO'99

お買い上げいただいた本商品はスウェーデンの労働団体(TCO)が定めた環境規格TCO '99 ガイドラインに適合しています。
TCO '99 ガイドラインは、画面品質、環境保護、低周波漏洩電磁界、安全性、省電力、リサイクル性等、広い分野にわたって規定しています。 以下の英文は、TCO が適合商品に英文で添付することを定めた環境文書で、TCO '99 ガイドラインの目的および環境要求の概要を記述しています。

Congratulations!
You have just purchased a TCO'99 approved and labelled product!
Your choice has provided you with a product developed for professional use. Your purchase has also contributed to reducing the burden on the environment and also to the further development of environmentally adapted electronics products.

Why do we have environmentally labelled computers?
In many countries, environmental labelling has become an established method for encouraging the adaptation of goods and services to the environment. The main problem, as far as computers and other electronics equipment are concerned, is that environmentally harmful substances are used both in the products and during their manufacture. Since it is not so far possible to satisfactorily recycle the majority of electronics equipment, most of these potentially damaging substances sooner or later enter nature.
There are also other characteristics of a computer, such as energy consumption levels, that are important from the viewpoints of both the work (internal) and natural (external) environments. Since all methods of electricity generation have a negative effect on the environment (e.g. acidic and climate-influencing emissions, radioactive waste), it is vital to save energy. Electronics equipment in offices is often left running continuously and thereby consumes a lot of energy.

What does labelling involve?
This product meets the requirements for the TCO'99 scheme which provides for international and environmental labelling of personal computers. The labelling scheme was developed as a joint effort by the TCO (The Swedish Confederation of Professional Employees), Svenska Naturskyddsforeningen (The Swedish Society for Nature Conservation) and Statens Energimyndighet (The Swedish National Energy Administration).
Approval requirements cover a wide range of issues: environment, ergonomics, usability, emission of electric and magnetic fields, energy consumption and electrical and fire safety.
The environmental demands impose restrictions on the presence and use of heavy metals, brominated and chlorinated flame retardants, CFCs (freons) and chlorinated solvents, among other things. The product must be prepared for recycling and the manufacturer is obliged to have an environmental policy which must be adhered to in each country where the company implements its operational policy.
The energy requirements include a demand that the computer and/or display, after a certain period of inactivity, shall reduce its power consumption to a lower level in one or more stages. The length of time to reactivate the computer shall be reasonable for the user.
Labelled products must meet strict environmental demands, for example, in respect of the reduction of electric and magnetic fields, physical and visual ergonomics and good usability.

Below you will find a brief summary of the environmental requirements met by this product. The complete environmental criteria document may be ordered from:

TCO Development
SE-114 94 Stockholm, Sweden
Fax: +46 8 782 92 07
Email (Internet): development@tco.se
Current information regarding TCO'99 approved and labelled products may also be obtained via the Internet, using the address: http://www.tcodevelopment.com/

Environmental requirements
Flame retardants
Flame retardants are present in printed circuit boards, cables, wires, casings and housings. Their purpose is to prevent, or at least to delay the spread of fire. Up to 30% of the plastic in a computer casing can consist of flame retardant substances.
Most flame retardants contain bromine or chloride, and those flame retardants are chemically related to another group of environmental toxins, PCBs. Both the flame retardants containing bromine or chloride and the PCBs are suspected of giving rise to severe health effects, including reproductive damage in fish-eating birds and mammals, due to the bio-accumulative* processes. Flame retardants have been found in human blood and researchers fear that disturbances in foetus development may occur.
The relevant TCO'99 demand requires that plastic components weighing more than 25 grams must not contain flame retardants with organically bound bromine or chlorine. Flame retardants are allowed in the printed circuit boards since no substitutes are available.

Cadmium **
Cadmium is present in rechargeable batteries and in the colour-generating layers of certain computer displays.
Cadmium damages the nervous system and is toxic in high doses. The relevant TCO'99 requirement states that batteries, the colour-generating layers of display screens and the electrical or electronics components must not contain any cadmium.

Mercury **
Mercury is sometimes found in batteries, relays and switches.
It damages the nervous system and is toxic in high doses. The relevant TCO'99 requirement states that batteries may not contain any mercury. It also demands that mercury is not present in any of the electrical or electronics components associated with the labelled unit.

CFCs (freons)
The relevant TCO'99 requirement states that neither CFCs nor HCFCs may be used during the manufacture and assembly of the product. CFCs (freons) are sometimes used for washing printed circuit boards. CFCs break down ozone and thereby damage the ozone layer in the stratosphere, causing increased reception on earth of ultraviolet light with e.g. increased risks of skin cancer (malignant melanoma) as a consequence.

Lead **
Lead can be found in picture tubes, display screens, solders and capacitors. Lead damages the nervous system and in higher doses, causes lead poisoning. The relevant TCO'99 requirement permits the inclusion of lead since no replacement has yet been developed.

* Bio-accumulative is defined as substances which accumulate within living organisms
** Lead, Cadmium and Mercury are heavy metals which are Bio-accumulative.

FCC Information

1. Use the attached specified cables with this equipment so as not to interfere with radio and television reception.
   (1) The power supply cord you use must have been approved by and comply with the safety standards of U.S.A.
   (2) Please use the supplied shielded video signal cable. Use of other cables and adapters may cause interference with radio and television reception.

2. This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy, and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:
   - Reorient or relocate the receiving antenna.
   - Increase the separation between the equipment and receiver.
   - Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
   - Consult your dealer or an experienced radio/TV technician for help.

   If necessary, the user should contact the dealer or an experienced radio/television technician for additional suggestions. The user may find the following booklet, prepared by the Federal Communications Commission, helpful: “How to Identify and Resolve Radio-TV Interference Problems.” This booklet is available from the U.S. Government Printing Office, Washington, D.C., 20402, Stock No. 004-000-00345-4.

Declaration of Conformity

This device complies with Part 15 of FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions. (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

U.S.Responcible Party:	**Mitsubishi Digital Electronics America, Inc.**
Address;	**9351 Jeronimo Road, Irvine, California 92618 U.S.A.**
Tel.No.:	**+1-(949)465-6000**
Type of Product:	Display Monitor
Equipment Classification:	Class B Peripheral
Model:	RDT196S/RDT196S(BK)(L195GH) RDT196V/RDT196V(BK)(L195GH) RDT1712S/RDT1712S(BK)(L175GG) RDT1712V/RDT1712V(BK)(L175GG)

We hereby declare that the equipment specified above conforms to the technical standards as specified in the FCC Rules.

さくいん

英数字

あ

か

さ

た

は～ら

三菱電機株式会社

本社　〒 100-8310　東京都千代田区丸の内 2 丁目 2 番 3 号（三菱電機ビル）
2005 年 11 月 7 日以降：〒 100-8310 東京都千代田区丸の内 2-7-3（東京ビル）

Printed in China